

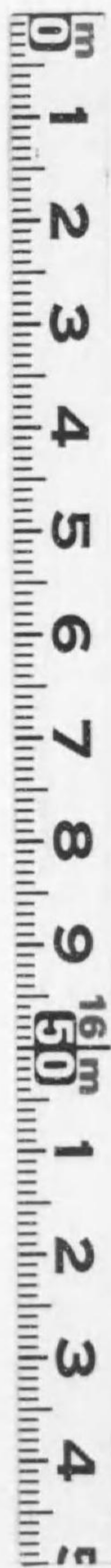
特 116

3/3

大正十四年上院議員互選記念

貴紳錄

貴紳錄發行所



始



頁116
313

序 言

社會ハ一種ノ大學デアル、活社會ニ於ケル先輩人士ノ事業人物ヲ知ルコトハ後進ノ活教訓タルコト贅言ヲ要セナイ、本書編纂ノ目的モ亦實ニ茲ニアル、余夙ニ本縣下ニ巨ル人材録ノ未ダ刊行ザレザルヲ遺憾トシ其編纂發行ヲ企圖シテ并々時恰モ貴族院令改正法第一次ノ選舉ニ際シ益々其意ヲ鞏メ之レガ計畫ノ遂行ヲ圖ルト共ニ有意義ナリシ上院議員選舉ヲ記念スベク遂ニ今秋稿ヲ起シ今之レヲ剞劂ニ附スルニ至ツタ、當初一百有資格者並ニコレニ參與セル名士全部ヲ網羅スル豫定デアツタガ日時ノ短カ、リシト其他ノ事情ニ依リテ既刷セル一部人士ノミノ登載ニ止メシハ余ノ頗ル遺憾トスル處デアル、尙掲載範圍ヲ貴族院議員有資格者トセルハ之等ノ人々ハ總テ地方ニ於ケル代表的人物デアツテ人材トシテ其ノ選ノ不當ナラサルコトヲ信ジタカラデアル、多額納稅者必ズシモ人物ナラズト非難スル者アラバソハ恒産ナキ者ニ恒心ナシノ格言ヲ知ラサルノ徒輩ノミ、故ニ本書ヲ貴紳録ト命名セル所以ノモノ又其意茲ニ出ヅ。余ハ本書ノ刊行ニ依ツテ本縣

大 正
14. 12. 24
内 交

文化ノ上ニ貢獻スル處アラバ本懷之レニ過ギザルハナイ。
 終リニ臨ミ本書編纂ニ對シ多大ノ援助ト利便ヲ與ヘラレタ大方諸賢ノ芳
 志ニ對シ深ク感謝スル處デアアル。

大正十四年十月

編者 小畑芳太郎 識

目次

○池田伊三郎	三	○西本幸三郎	六
○糸川龜之助	三	【ト】の部	
○池田重兵衛	三	○戸塚廣三郎	三
○池田増次郎	三	○道本秋三	三
○岩鶴徳太郎	三	○道本爲吉	三
【ハ】の部		○土岐嘉平	七
○原庄右衛門	四	○鳥居楠之助	七
○橋爪源助	四	○道本嘉市	七
○長谷六兵衛	四	【又】の部	
○橋本太治兵衛	四	○沼平助	六
○原秀次郎	九	【チ】の部	
【ニ】の部		○太田正信	三
○西本健次郎	一	○岡本幸助	九
○西風重遠	七	【ワ】の部	
○西風相之助	六	○和田藤藏	四
		○渡邊綱五郎	四

【サ】の部

佐本清右衛門
笹野梅太郎

【キ】の部

北島七兵衛
木下吉兵衛
木下伊平
木下齊十郎

【ミ】の部

宮本吉右衛門
南方常楠
宮田幸之助
宮本嘉平次
南楠太郎
南方吉九郎
三前伊平
三尾邦三

四 四

二 七 九

二 元 八 六 七 四 〇〇

【シ】の部

島村安次衛
島本安兵衛
清水惣太郎

【ヒ】の部

平松熊次郎
平野純市郎

【モ】の部

桃谷政次郎
瀬戸健三
鈴木喜平治

【セ】の部

【ス】の部

四 六 元

三 三 三

二 三 五

筆の 人

大正十四年九月十日執行された貴族院
多額納税者議員選挙に際し其情勢に關
して親しく筆を執られし操觚界の花形



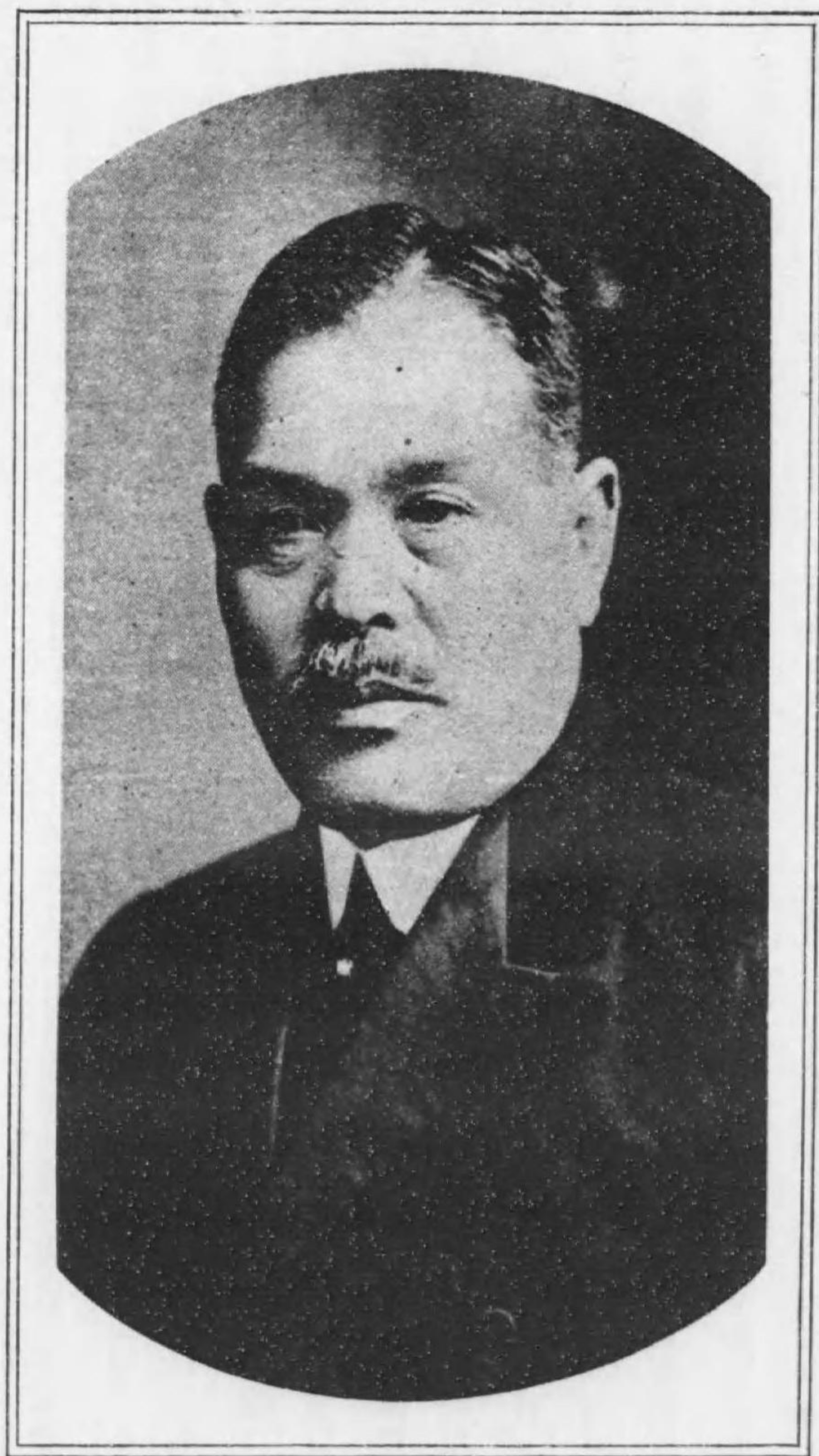
【下】

大阪朝日新聞和歌山通信部
山室廉吉君



【上】

大阪毎日新聞和歌山通信部
西川正治郎君



貴族院議員
西本健次郎君



實業界の大先輩

宮本吉右衛門君

紀州金融界の霸王株式會社四十三銀行の頭取たること實に三十有餘年の久しきに至る縣下實業界の大先輩宮本吉右衛門氏は世情騒然たる嘉永五年和歌山市に生る、宮本家は代々質商を營みしが幼より智畧才幹に富む氏は非凡なる精力と絶倫なる觀察力を以て今日の地盤を開拓した、氏は同行の頭取に就任したのは明治廿一年未だ國立銀行と稱せし當時であつた、其後和歌山紡績紀陽貯蓄南海鐵道南海絹糸和歌山農子、新北各小學の建築費等に多大の寄附をなし日清戰役には出征遺族扶助に盡力し日露戰役にも巨額の軍費を献上し又赤十字事業に貢獻すること天聞に達し再度明治大帝行啓の砌特に拜謁仰付られ同卅八年有功章を付與され實に限りなき光榮に浴した、又大正七年米騒動の時一萬五千圓を寄附して貧民を救ひし等公共事業に盡せる掲げて數へ難しと。現住所和歌山市新八百屋町

工等の監査役に就任した政治方面の經歷は明治十七年縣會議員に同二十三年市會議員に當選爾來市會多數派の顧問となり四十年頃迄市政に盡瘁した後志を絶ち専ら金融界に没頭し今日に至つた性雄大仁俠なる氏は青我、女





熊野實業界に傑出せる人材

神田 清右衛門 君

父君は紀州航路を開始した
本縣海運界の大恩人

紀州海運界の大恩人故神田清右衛門氏は傑出せる熊野實業界中の偉人であつた氏は神田汽船會社（買收されて大阪商船となる）を設立し熊野大阪間の所謂紀州航路を開拓し交通の不便なる紀州人並に産業の開発に對して大なる福利を與へた此偉傑の血を享けて人となつた當代神田清右衛門氏又父君に劣らざる人材であつて明治大學（當時は明法）卒業後歸郷し嚴父死去の跡を襲ふて其遺業を繼ぐや緻密なる頭腦と明敏なる才能は氏が欲する儘に實業界に企業界に飛躍して氏が企圖せる各種事業の一として成功せざるなく鈴木喜平治氏と共に日東移民會社（今は海外興業移民に合併す）を起し嚴父が設立せる紀水捕鯨株式會社が東洋捕鯨株式會社と合併するや之が重役となり大阪に大理石工業株式會社を起して之れが社長となり熊野合同銀行の頭取となりて其事業の上に非凡の手腕を揮ひ其の成果の見る可きもの顯著にして今や熊野實業界に其の覇を唱ふるに至つた、氏は明治十三年西牟婁郡串本町に生る、氏は同町富豪矢倉甚兵衛氏の令妹を娶りしも不幸なる哉逝去せるを以つて一門たる神田家より雪枝子を迎へ十二息子の親として多幸なる歲月を送つてゐる。

世稀に見るの人格者

上山市郎兵衛君

嚴父伯父共に藍綬章を授けらる
九族何れも名門ならざるはない

氏は有田郡保田村大字山田原なる所謂有田柑橋の本場に孤々の聲をあぐ、世々富豪を以つて聞へ九族何れも名門ならざるはない、氏の人となりや温厚篤實、恭儉自ら力め博愛衆に及ぼすものありき、従つて郡民氏を見ること慈母の赤子に於けるが如きものある、現南海水力電氣株式會社は氏の嚴父並に其一族の創立にかゝるものにして當時郡民一同同社將來の危険を慮はかり株主たらんと欲するもの稀であつた、而も先見の明を有せし氏の嚴父は將來電氣事業の有望なるを確信し平然として自ら株式の大半を負ふて設立し以て今日の盛大を致した尙亦實業界に貢献せること畏くも天聽に達し大正七年藍綬章を授與された氏の伯父同苗英一郎氏もまた曾て藍綬章を授けられた、氏は此父と此伯父を有し上山家の嗣子として生れ嚴父逝去後襲名して其家督を繼ぎ南水社長の椅子をも繼承した氏は和中出身の英才で海草郡鹽津村石橋八九郎氏の息女を娶り既に一子をあぐ長姉は上山靜藏氏に嫁し次姉は山口孫七氏に嫁し令弟薫氏は分家して和歌山市湊通り丁に一家を成してゐる、氏齡未だ春秋に富む願くは邦家の爲め將來の奮勵を庶幾ふ。

市將來の實業界をせをいたつ

前田辰之助君

我和歌山實業界の雄辯家であり徳望家たる氏は明治三年六月同市南材木町前田善兵衛氏の長男に生れ幼名を龜之助と呼び後辰之助と改名した、氏は友情に厚く其始終渝らざる厚誼に人をして感激せしむることがある今や

商業會議所副會頭として裁決流る、が如く會議所が實業界に於て重きをなすに至つたのも氏奮勵努力の賜である、氏は人格崇厚理智に富み感情に走らず公私を辨へ少しも進むべき途を謬たない、亦



にあり市將來の實業界を背負ひ立つ者蓋し氏を於て亦他に求め得ない、氏は現代實業家に有り勝ちな淫靡放逸の点なく一つの情話もない家庭の父としてよく訓化行はれ婢僕を勞はり常に傲れる心とてなく至つて平民的な好個の紳士である令閨梅子夫人は同市湊本町井關久楠氏の長女にして夫妻の間に五男三女あり長女朝子に婿養子して既に二子を擧ぐ現住所和歌山市柳町

愛市の念強く常に私財を投じて公共に盡瘁し或は海中父兄會長として同校の爲めに或は大新小學の設備充實に奔走する等育英事業に力を致し其功勞からず實業家としての氏は現に内海紡織社長、和歌山紡織會社取締役の職

西風重

紳士の典型——貴公子然たる

竹 中 源 助 君

和歌山市北新桶屋町川口家に孤々の聲を擧げ幼名を與四郎と呼んだ氏は明治卅六年一月竹中家に
 入り養父源助氏の二女美喜枝子と婚姻し同四十五年三月養父源助氏の名を襲ひて家督相續した、令
 閨美喜枝子との間に長女
 美代子次女延子三女美佐
 代子二男源太郎四男泰三
 君等の子寶を有し一家團
 樂和氣堂に滿つ氏は鼻目
 秀麗好個の紳士であつて
 特に感すべき美點がある
 這是現代の紳士は概ね料
 亭に足を没して醜業婦と
 行を顧みれば蓋し謂なしとせずやである、氏は明治十年六月廿七日の産、現住所和歌山市屋形町一
 丁目にして大阪市北區北久太郎町一丁目に支店を有し氏は同地に寄留してゐる



浮名を流し或は妾を蓄ふ
 ることを能事とすれど然
 るに獨り氏に至つては品
 行方正曾て旗亭に攀ちず
 妾を蓄へず只管事業に熱
 中してゐる、市唯一の富
 豪として綿糸綿布業、株
 式會社商店主として衆人
 美望の的となれる氏の性

徳望高き新進實業家

橋本太治兵衛君

日高郡切つての大地主
春秋に富む有爲の郷士

日高郡に於ける大地主たる氏は同郡湯川村大字小松原に孤々の聲を擧げ長じて後東都に遊び農林専門の學を習ひ歸郷後之れを實地に施し以つて小作農を督勵しつゝ家運の隆昌に努めつゝある、農林學の造詣深き斯業界の指針たると共に名望高德の士である、氏は居常謙讓の美德を有し後進を牽ゆるに徳を以つてし人を教化するの偉力又大なるものがある氏は小作問題に對する理解を有し常に小農の立場を憫察し積徳普ねくぶ處、一の不平を聞かずと其他公共の事、個人の瑣事、骨肉も及ばざる程の世話好きで過去に積める其善根福德は擧げて數ふるに違あらず爲めに氏の徳望は家運と共に歳に榮る現代豪農中稀に見る篤行の士である、氏は曾て選ばれて所得税調査委員たりしことがある氏は書骨を好み謠曲を能くし就中書畫骨董に對する鑑識の高き時に専門家をして阿然たらしむることありと傳へ聞く氏年齢未だ三十七にして春秋に富む前途有爲の新進氣鋭の郷士である、折角自重邦家に貢を獻せんことを。

實業界の大立物

南 楠 太 郎 君

海草郡紀三井寺村三葛喜代松氏の二男に生れし氏は男士志を成さんごせば商人たるべしとの信念の下に郷を出で、和歌山市三木町の糸商竹中源助氏の徒弟となり勤勉直忠なる性深く源助氏に愛せられつゝ此處に成人した或時徳島に遊び一攫千金の富を得て和歌山市に皈り和歌山紡織會社の大株主となり又織布會社の重役となり一躍して實業界の大立物となつた和歌山紡織會社の今日の大を致せるは氏の敏腕に依るも



旭日昇天の如しである、性勤直方正長男俊一氏は東京高商を出でて大阪の銀行にあり次男幸男氏は四高を三男操氏は慶大に遊學中、氏の趣味は資力なき學徒を養ふに有り既に氏の出資を仰ぎて高等教育を受けたる者其數算する遑あらずと、又彼の一の橋の住宅の如きも皆氏の設計に成れるものと聞く、現住所和歌山市六番丁、年六十二歳

海草郡紀三井寺村三葛喜代松氏の二男に生れし氏は男士志を成さんごせば商人たるべしとの信念の下に郷を出で、和歌山市三木町の糸商竹中源助氏の徒弟となり勤勉直忠なる性深く源助氏に愛せられつゝ此處に成人した或時徳島に遊び一攫千金の富を得て和歌山市に皈り和歌山紡織會社の大株主となり又織布會社の重役となり一躍して實業界の大立物となつた和歌山紡織會社の今日の大を致せるは氏の敏腕に依るも

南 楠 太 郎 君



南 謝 太 郎 氏

現代商賈の典型

垂井清右衛門君

現商業會議所會頭
市企業界の功勞者

家代々質商を營み富豪である、氏は現住所たる和歌山市西旅籠町に生る、幼名を清之助と稱し夙に奥山學校を卒業し育英の業に従ひしが後職を辭して家業に従事した、聰明なる氏は實業家相互の智識交換をなすべき機關なきを憂ひ明治廿一年商工相談會なるものを起し其副會頭となり翌廿二年市會議員に選出爾來殆んど廿年間或は市參事會員となつて市政の爲め盡瘁した、當時氏は綿ネル主産地たる和歌山市に完全なる染工場なきを遺憾とし同志と共に多年の研究を重ね漸く完全なる染色を爲すを得た、同廿九年電燈會社を起して社長となり三十一年和歌山織布株式會社取締役となり同年又商業會議所議員に當選し常務委員となり同卅五年内國勸業博覽會和歌山協賛會理事となつた、着々實業界に其地歩を占め同卅七年遂に商業會議所會頭となり十有餘年の長日月を経て今尙其職にある、實に氏の如きは現代商賈の好模範とも謂ふべく多く復た得難き人材と云ふべしである、萬延元年六月一日の産、現市會議員垂井清之助氏は氏の二男である

紀陽織布株式會社長

糸川龜之助君

一小店員より身を起して克く巨萬の財を致し商界の機敏、志氣の剛堅、資性の卓抜、伏虎城下實業界に巍然として頭角を現はす者に糸川龜之助がある、蓋し稀に見るの偉才である、氏は明治八年九月那賀郡池田村字西三谷に生れ十四五才にして家を捨て和歌山市に來り某商家の丁稚となつた、長するに及びて獨力

同市新中通五丁目に
吳服商を營み同二十
九年四月亡糸川とく
わの入夫となり家督
を相續した、勤勉力
行。同卅九年明治起
毛合資會社を組織し



たのを手始めに四十
年明治工業所を四十
二年四月六日紀陽織
布會社を創立し大正
二年に至り新に明治
工業所と明治起毛會
社の二會社の合併を
斷行し資本金二十五

萬圓なる明治物産株式會社を設立するに至つた、同八年事業の勃興に鑑み別に糸川商事株式會社を起し現に養嗣子芳一郎氏を社長としてゐる、先妻は三兒を残して世を去り後釘貫源助氏の二女亥登惠子を後妻に迎へた長女信枝に海草郡北出島小川家より養子を迎へ糸川家の相續人とした、現住所和歌山市木挽町



中谷長左衛門君の肖像

舊藩主より二字帶刀御免の舊家

中谷長左衛門君

創業既に三百有餘年
家代々木材業を営む

中谷家は舊紀州藩主より二字帶刀御免、御用材係を命せられし家代々の木材商で創業既に三百余年の歴史を有する舊家である、家世十七代の當主たる氏は明治十二年十二月十五日和歌山市北新五丁目に生れ幼名を初次郎と云ひ亡父死去後四男なりしも家督を相續し襲名して長左衛門と改名した氏資性淳良温乎たる其風貌は流石舊家の嗣子たるを肯首さる、氏は大正八年選ばれて市會議員と成り爾來再選すること二期今現に其任にある又和歌山製材同業組合長に推され其間同業並に市政に貢獻せること決して尠くはない、令閨歌子は同市南材木町三丁目川邊梅楠氏の長女にして一男一女を舉ぐ令息子は目下小學に通學中である氏は又三男二女の兄妹を有し長兄故中谷寅楠氏は先代中谷長藏氏にして次兄中谷吉之丞氏は目下大阪市北區福島にありて石鹼製造業を營み三兄中谷保吉氏は同市北新五丁目に製材所を經營してゐる、氏は大正九年合名會社川中組を組織し之れが社長となり家祖傳來の木材、製材業を經營しつゝ、銳意之れが發展策に寧日なく業運益々隆昌を極めてゐる、現住所和歌山市北新五丁目廿六番地

多幸多福なる哉

津田信美君

紀の川支流の清流を前に蜿蜒たる連岳を後にして數町に亘る白壁をめぐらし一城廓の如き大邸宅は近郷切つて長者にして舊家たる津田家のそれである、當主津田信美氏は明治二十四年を以て現住所たる那賀郡安樂川村大字調月に孤々の聲をあげた、氏は生れ落つるや巨額の財寶を有し多數の召使ひより若主人とし

て尊敬の中心となり
嚴父慈母より掌中の
玉の如く愛育された
一世の幸福兒である
和歌山中學卒業後は
家にあつて家寶の益



々増加しつゝある喜
悅の裡に遂に家督を
相續した、本縣財界
の巨星にして實業界
の大先輩たる株式會
社四十三銀行頭取宮
本吉右衛門氏の嚴父

は實に同家より出でて宮本家に迎へられたのである、氏は資性恬淡、部下を愛する我兒の如く身は深窓に育てども能く世情に通じ憐憫の情に富む爲めに未だ年貢米等における紛紜を聞かず其名望愈高く喧傳されつつある、趣味としての氏は謠曲書畫骨董にして謠曲は既に大家の風貌あり古書畫骨董類は其數算するに遑あらざる程多數を所藏して居る多幸なる哉名門の出多福なる哉、長者の嗣

有田郡隨一の富豪

海 瀨 定 一 君

嚴父は有名な林業家にして
藍綬章を授與された功績者

氏は明治八年十一月三十一日を以て有田郡八幡村大字清水の富豪海瀨龜太郎氏の長男に生れ同三十八年三月家督を相続した、氏は中學を出で東都に遊び慶應大學に入りしも間もなく轉じて早稻田大學に學び同校を卒業した秀才で其人となり温厚にして篤實、常に郷黨を愛撫して善根福德を施すために郷童に至るまで氏を尊敬せざるものはない、氏の家は代々の富者にして資産優に百萬を越へ有田郡内隨一の大財産家である、嚴父龜太郎氏は夙に志を山林の事業に致し其盡せる功績畏くも天聽に達し我帝國實業家としての最高褒賞たる藍綬章を下賜せられたるは一門の最大名譽と謂はざるを得ない

氏の令閨麻子夫人は西牟婁郡田邊町の豪商那須孫次郎氏の令妹にして夫妻の間に長男榮一氏、次男新次二女仲子の二男一女を有し琴瑟相和し一家團樂として樂しき家庭を作つてゐる嚴父龜太郎氏は今尙ほ鑿鑿として健在、日々家業を督勵しつゝある又熾なりと云ふべしである、現住所有田郡八幡村大字清水

赤手空拳實業に成功した

高垣 龜吉 君

氏は慶應二年正月十二日那賀郡長谷毛原村大字宮新谷九兵衛氏の長男に生る年十四の春赤手空拳郷里を出で和歌山市に來り新中通六丁目綿ネル商にして叔父に當る高垣忠兵衛氏を尋ね同店の店員となり爾來二十年間粉骨碎身主家の爲めに誠忠を盡した、時恰も日露の役起るや商才に富める氏は年來鍛へ上げた商略宜く獨力自營の志を芽さしめ貯蓄せる數千金を以つて綿ネル商を開始した斯くして大正三年同所に數萬金を投じて宏大な熱血の士なるが故に常に世人より敬慕されつゝある君は高垣姓を名乗り分家して一家を立て那賀郡池田村批把谷山田榮藏の長女國枝を娶り三男四女を擧ぐ長男忠造君は和商卒業後日高郡鹽屋村山田長太郎氏長女琴女を迎へて父君の業を助け次男忠雄君は海中に、長女靜子は鳥居工學士に嫁し二女文子は市出身現六高教授森啓藏氏に嫁し三女美智子四女貞子は目下和高女、實科に在學中である



店舖を設け事業益隆昌を極むる至つたが不幸なる哉大正八年の大火に遭ひしも翌年更に現家屋を新築し一層事業の發展に努めた、氏資性温厚

財力手腕併せ有する

中野穰造君

郡内有ゆる會社の重役
熊野實業家中の一異彩

氏は東牟婁郡勝浦町の人、家代々醤油醸造を以て業とせる地方切つての素封家で氏は中野家の嗣子で生を此家に享けた氏性温良能く人情に厚く身は富裕の息に生れ乍ら下情に通じ常に私財を投じて公共の事業に盡し以つて快事としてゐる、地方民の氣受け頗る善く勝浦町に於ける有志として町民から深く尊重されてゐる氏は家督相續後遺業たる醤油醸造の業に就くや奮闘努力販路の擴張に努め今や其需要甚だ廣く各種品評、共進會に出品して受賞せること再四に止まらずと氏は亦郡内各所は散在する諸會社に重役たるもの多く東奔西走常に事業の發展に盡瘁してゐる、氏資性温厚、篤實氏は其卓越せる識見、非凡なる手腕共に併せ得たる世亦得難き人材にして苟安を偷せず孜孜營々として關係事業に精勤してゐる、氏は慥に熊野實業界中の一異彩であつて世人亦氏を斯く許してゐる駿足伯樂なきを恨み、伯樂駿足なきを憾む、財力と手腕と併有するもの蓋し尠い哉である、現住所東牟婁郡勝浦町

縣下唯一の洋品雜貨店主
宮 本 嘉 平 次 君

海草郡西和佐村大字岩橋加藤良寛氏の令弟である氏は幼名を元保、廿四五歳の時和歌山市本町二丁目宮本嘉平次氏の婿養子として入籍、家督相続後亡父の名を襲ひ祖父傳來の家業たる雜貨商を繼承し日夜營々として其業に勵んだ其結果家運益繁榮を極め大正五年現在の場所に廣大なる洋館を新築し京橋街頭一美觀を呈してゐる、氏は擧げられて和歌山雜貨商組合長となり商業會議所議員となりて實業界に貢献する處尠くはない和歌山市小學校學務委員となり大正十四年市會議員改選に際し一級より立候補して遂に



る伉儷睦まじく家庭常に春風に満ち和氣霽々として幸福な日月を送つてゐる、明治八年一月十八日の産にして現住所和歌山市本町一丁目二十二番地、氏が經營する宮嘉雜貨店は創業既に五十年にして市唯一の洋品雜貨商として自他共に許してゐる亦熾なる哉

榮冠を得て現に其職に在る、令閨光枝子夫人との間に一男三女あり長女嘉代子は高女卒業後惣次郎氏を婿養子として迎へ次女好榮子は和歌山高等女學校卒業後家庭にありて内政を助け三女花子は目下實科高女に在學中であ

一、
二、
三、
四、
五、
六、
七、
八、
九、
十、
十一、
十二、
十三、
十四、
十五、
十六、
十七、
十八、
十九、
二十、
二十一、
二十二、
二十三、
二十四、
二十五、
二十六、
二十七、
二十八、
二十九、
三十、
三十一、
三十二、
三十三、
三十四、
三十五、
三十六、
三十七、
三十八、
三十九、
四十、
四十一、
四十二、
四十三、
四十四、
四十五、
四十六、
四十七、
四十八、
四十九、
五十、
五十一、
五十二、
五十三、
五十四、
五十五、
五十六、
五十七、
五十八、
五十九、
六十、
六十一、
六十二、
六十三、
六十四、
六十五、
六十六、
六十七、
六十八、
六十九、
七十、
七十一、
七十二、
七十三、
七十四、
七十五、
七十六、
七十七、
七十八、
七十九、
八十、
八十一、
八十二、
八十三、
八十四、
八十五、
八十六、
八十七、
八十八、
八十九、
九十、
九十一、
九十二、
九十三、
九十四、
九十五、
九十六、
九十七、
九十八、
九十九、
一百、



紀南實業界の花形

原 秀 次 郎 君

其邸宅は趣味そのもの、表現

氏は明治二十三年三月十七日を以つて西牟婁郡田邊町大字中屋敷町原秀次郎氏の貳男に生れ幼名を元吉と云ひ嚴父死亡後襲名して家督を相續した氏は田邊中學を経て三高に入りしも家事都合に依り半途退學し歸郷後其家業に就いた氏は今や湯崎土地株式會社取締役、田邊銀行監査、田邊酒造株式會社取締役として其任にあり非凡なる手腕と明敏なる頭腦は能く其業運を隆昌ならしめ實業界に於ける少壯氣銳の實業家として尙將來を嚮望されてゐる、氏資性温厚篤實、世の富豪に有り勝ちなる高慢なる態度毫もなく人に接する温和未だ曾て人と争ひしことなしと聞く、大正九年伊都郡妙寺町字中飯降酒造家木下齊十郎氏の息女美代子を娶り一子を挙げしも今は破鏡の歎ありしとは兩家の爲め惜む可き事である、氏の家は代々酒造を業とし地方における素封家として知られ同町榮町に住せるも氏の代に至り現在の處に移轉し宏大なる新邸を建築した其建造物は氏が有する趣味そのもの表現であると傳へられてゐる。

舊家中長の分家たる當主

中 谷 長 藏 君

氏は市の舊家たる材木商中谷家の分家たる中谷長藏氏第三世の當主であつて先代長藏氏は中谷長左衛門氏の令兄寅楠氏であつた、先代長藏氏早世後迎へられて養子となり全家を相續して襲名した氏は初代長藏氏の令兄たる、日高郡御坊町中川藤吉の次男に生れ幼名を喜市と呼んだ、令閨つや子夫人は本家十六代の主長藏氏の令弟たる中谷米藏氏の長女であつて夫妻共に分家に入つて同家を繼續した、氏は家業たる



めてゐる氏天稟の商才は宜く市一流の實業家たらしめ其性又温良なるも商機を捕ふるに敏にして剛膽なるが如く小心なるが實に實業家としての要素を具備した良材たるを失はない、令閨つや子夫人との間に七人の息子あり、家庭常に相和し春風に満つるの觀ある、明治十一年十二月十二日の生れ

木材、製材の業を繼ぐや
精意熱心にその業に従ひ
健實なる營業方針は舊家
の分家たるに相應しく着
々家運の益々繁榮ならん
ことに努め現今にては本
家をも凌駕するまでに鞏
固なる家礎を作り中長の
家名をして愈々高からし

地番四丁新北山歌和所住油

海南政、財兩界の大立物

名手源兵衛君

順境の人一代の幸福兒

威信資産歳と共に加ふ

政財兩界の牛耳を握り胸中に幾多の抱負經綸を有し而かも名手由兵衛、全徳三郎兩氏と共に三角同盟を作りて覇を唱ふ、氏は明治二年十二月二十九日海草郡黒江町先代源兵衛氏の長男に生れ幼名を政吉と呼んだ、全卅四年九月家督を相續すると共に先代を繼ぎて源兵衛と改名し専ら酒造業に意を致し古くより多額納税者としての威信を保ち資産、歳と共に増しつゝある以つて氏の敏腕常ならざるを知るに足る、性温厚にして郷土氣質厚く商略に機敏なること時に人をして舌を捲かしめる、夫人ヒデ子(明治元年十月生)は全町名手由兵衛氏の令妹にして廿二年六月三十日を以つて氏に嫁した、氏は敏腕にして能く時運の趣く處を察知するの炯眼あるに加ふるに其背後に義兄由兵衛氏の存せることが氏の事業をして常に順風に帆を上げて進む帆船の如き順調を致さしめてゐる、長男喜太郎君(明治二十八年三月生)は此の一粒胤にして夙に商策に通じてゐる、氏亦稀に見るの幸運兒と謂ひつべしである、現住所海草郡黒江町八百四十六番地

海南第一の大富豪

名手由兵衛君

性温良にして謙讓の人
世に聞へたる大孝行者

黒江の名手由と謳はれて名聲南海に鳴る南海草第一の富豪たる氏は其地主、肥料商、多額納税者の各何れの肩書にても一頭地を抜いて多く人々に憎炎されてゐる、氏は明治四年一月海草郡黒江町に生れ幼名を直松と呼び明治廿四年七月先代由兵衛氏の歿後相續と共に襲名した、性温厚一般富豪に見る傲慢の態度毫もなく頗る頭の低き人である更に特筆すべきは世に聞へたる孝行者にして氏の信望一郷に轟く亦所以なきに非ず近時黒江町に於ける實業の不振を憂ひて率先各方面に活躍の範を示し専ら後進の誘掖に努めた、令閨縫子は伊都郡大谷村岩本惣兵衛氏の三女にして明治廿四年十月入籍した、長女晴子(明治卅年生)は西牟婁郡田邊町大字今福近藤新十郎氏四男峰四郎を婚養子に迎へ大正七年十一月芽出度華燭の典を擧げた二女やす子(全三十六年生)長男孝一(全卅八年)三女うた子(全卅九生)四女つね子(全四十年生)等は何れも健在にして家にあり團樂たる家庭を作つてゐる現住所海草郡黒江町四百八十六番地

地方開發の先覺者

柏 木 市 郎 君

地方青年の体育獎勵に力を致し
千二百坪の土地を會に寄附した

紅樓に絃妓を擁して大平樂を歌ふ紳士親譲り財産に此時節柄米價を知らぬ素封家、乃至は口に大義名分を稱へて一點忠孝の行なき僞君子多き現世に意志鞏固にして善に進み、努力奮闘を信條として義侠の心に富み而も斷へず公共の事に意を致せる柏木市郎氏を得て、吾輩如何に其心強きを覺ゆるものである、氏は西牟婁郡東富田村字十九淵に生れ田邊中學を経て京都三高に學びしも家事故あつて退學し以來今日に至る家業に罷勉してゐる、其間氏は推されて村長たること一期、収入役たること二期常に職務に忠實にして村民福祉の増進に功勞せること甚大なものがあつた随つて富田川筋に於ける政治的勢力強く同地方政界の牛耳を握つてゐる、曾て氏は一千二百坪の土地を青年會に寄附し運動場を新設して青年の體育獎勵に努力した、氏は今や紀州砥石株式會社を設立し耐火性建築材料として之れが製品の販路を開拓せんと計畫しつゝある、氏は田邊町の素封家多屋家より夫人を娶り既に二女をあぐ、氏は好める洋畫の研究に餘念がない、亦日本畫を能くし其師川島草堂畫伯をして激賞せしむるの技を有してゐる、現住所生地に全じ、明治十八年二月二十日の生。

市實業界の霸王 北島七兵衛君

和歌山實業界の霸王北島七兵衛氏は一代數十万の富を成せる成功者の一人である、性温厚にして長者の風貌ある氏も商界の雲行を觀破して機先を制するの智略は泉の如くであつた氏が和歌山市新通一丁目深見藤七氏より

養子として北島家に入り
亡父七平氏の業を繼いだ
當時(明治十九年)本縣機
業の發達に鑑み製造業を
企畫し販路を主として京
阪間及び北陸地方に求め
専ら意を斯業に傾注し爾
後工場を市内湊に建設し



多數派の頭目を以つて許されてゐた近年其志を絶ち泰山の如き静寂を續けてゐる、先妻を以て六男四女を遺して病歿し數年後令閨つね子を娶り又一男一女を設け十二の子實を有し而も何れも健在なるは稀に見るの幸福である現住所和歌山市植松町なるも概ね二番町の別邸に居住してゐる、嘉永四年六月の生である。

今日に至つたのである現
今の氏は南海晒粉の社長
和紡四三の重役其他多數
の會社に關係を有してゐ
る氏は又商業會議所の收
入役を振出し湊區長縣會
議員市會議員となり議長
となり縣市政のため盡力
せる事多年其徳望は市會

政、農、商兼備の才腕を有する

岩 鶴 德 太 郎 君

— 大地主、村會議員 —
— 肥料會社取締役 —

我が那賀郡の人物を論評する者先づ酒造家にして大地主たる岩鶴德太郎氏を挙げざるべからず、氏は同郡田中村大字赤尾岩鶴庄吉氏の長男に生れ嚴父死亡後は其遺業たる酒造の業を繼承し其家督を續ぎ孜々汲々として家運のいや榮へんことに努力した、永年祖父の手に依つて築かれた家礎更に鞏固の度を加へ今や多額納税者として地方に於ける豪農紳商として尊崇さるゝに至つた、氏又村政に意を用ひ村會議員に選ばるゝこと三期、常に村治の爲め盡する處多く爲めに村民の信望大に厚く氏は又山三肥料株式會社の設立さるゝや推されて之れが取締役となりて實業界に飛躍した、氏は政治家として農商業家として可ならざるなき力量を有し那賀の天地を跋渉してゐる、氏は同郡根來村字西阪本法學士平野貞一郎氏の令妹を娶りて息子女を擧ぐ長男は目下札幌農大に在學し長女は元田中村々長宇田利一氏に嫁し圓滿なる家庭の人となつてゐる、氏資性温厚謹嚴の人、年齒正に五十有三、現住所那賀郡田中村大字赤尾

化粧料「美顔水」の本舗順天館主

桃谷政次郎君

美顔水本舗桃谷順天館主桃谷政次郎氏は文久三年九月那賀郡粉河町増次郎氏の長男に生れ明治廿七年家督相續して化粧料美顔水の發明に幸運を打開した其名聲年に揚り今や化粧品中の白眉として著はるゝに至つた燃れども氏の斯業に對する熱心は益々燃ゆるが如き勢にして丹波藥學博士を始め二三の博士を顧問として醫理藥工等の諸學士數名を聘し各得意の方面を擔任せしめ日夜研究に力め之れによりて、製造發賣



化粧品の研究及改良にして又多く餘念あることなしと夫人コウ子は慶應元年生れ同郡山崎村前貴族院議員津村紀陵氏の實妹に當る、夫妻の間に長男順一氏外數名の子女あり順一氏は藥學士にして大阪府藤井甚兵衛氏の次女初子を娶り現に父君の業を助けつゝある現住所那賀郡粉河町

さるゝ化粧品は美顔白粉を始め數十種の多きに及び何れも社會の好評を博し又高貴の御用命を賜つた、東京大阪に宏壯な店舗と研究所を有し業運益々隆盛を極め直接國稅數千圓を收め多額納稅者の地位に達した氏の趣味は

道德の權化、自治の神、

浦木清十郎君

三津野は全村免税の里
熊野通信網の功勞者

熊野隨一の資産家にして舊家なる東牟婁郡三津野村大字赤野浦木清十郎氏は慶應元年を以つて同村に生る家代々大山持ちにして林業を營み我國斯業界の大立物として世人に廣く知られてゐる、氏三津野村々長たる多年常に村民の福祉増進を思ひ自ら全戸數割に相當する金員を村に寄附し以つて全村民をして重税の苦みから脱せしめてゐる爲めに村民亦氏の德望を慕ひ村自治に對する頗る忠實にして優良村落として他町村の模範とされ従つて村長たる氏の政治的手腕廣く世に認めらるゝに至つた、亦往年三津野郵便局を設け之れが局長となり地方通信網の完成に努め熊野山間部今日の利便は氏が隠れたる大なる犠牲の結晶とも云ふべきである、亦新宮金融界に小銀行の鼎立するの不可なるを唱導し之れが合同の機運を作興し遂に其基礎を確立し今や大同銀行の頭取となりて熊野財界の覇を握るに至つた、氏資性聰明英邁にして道德の權化である氏が令嬢松枝子は京都高女出身の才媛で近年茂芳氏を婿養子として迎へた、自治の神、道德の權化てふ讃辭を冠する亦過賞ならざるべしである。

兄弟出色の譽ある

田淵榮次郎君

日高郡御坊町政の大功勞者前同町名譽助役田淵榮次郎氏は精力絶倫鞏固なる意志を武器として獅子奮迅目的に幕進するの士、人偶々氏を誤解する者あるも是れ即ち誤解する者の罪のみ、氏少時和歌山中學に學びたるも病軀の爲め半途退學し家庭にあつて獨學した、氏は今や田淵合名會社の代表社員として日高織物の社長として白良濱土地、日高水力、日高銀行、大分セメント紙業、日の出紡織、博濱信託等の各重役として政治實業行く



後笈を負ふて東都に上り早稻田大學政治科に入り明治四十一年優秀の成績を以つて同校を出づ其翌年歐洲に渡航し獨逸柏林大學に入りて政治經濟の奧義を極めて歸朝し大正九年原内閣の議會を解散するや本縣第三區より推されて中原の鹿を争ふや強敵中村啓次郎氏を倒して名譽の月桂冠を得た而も氏は當時年齢僅に卅九であつた斯く兄弟共、出色の譽ある蓋し田淵家に求めて是を得べきである

辯家田淵豐吉氏があ
る氏は田邊中學卒業

はなき人材にして有
ゆる公職は氏を待つ
に急なるものがある
氏の令弟に政界の雄

處として可ならざる
はなき人材にして有
ゆる公職は氏を待つ
に急なるものがある

大隈伯命名の遊春醸造元

南方常楠君

世界的大植物學者を兄に持つ

市實業界に異彩を放つ識者

氏は明治三年三月和歌山市湊紺屋町彌右衛門氏の三男に生れ同十二年六月家督を相續し夙に酒造業を以つて知られてゐる、氏は早稻田大學出身の偉才で市實業界中異彩を放つ有識者で資性温厚篤實實業界に於ける氏は商業會議所特別議員朝鮮土地會社長、南海晒粉、南洋産業各取締役、和歌山瓦斯、和歌山銀行、日本王冠製造各會社監査役等各方面に涉りて其要職にあり令閨ます子夫人は海草郡雜賀村關戸中野文左衛門氏の令妹で一男一女を産む嗣子常太郎氏は稻門出身の秀才で令閨林子是那賀郡山崎村畑毛製糸酒造業吉村友之進氏の長女、長女すみ子の婿養子として日高郡御坊町川瀬九助氏の二男淳次郎氏を入れ同夫妻は兵庫縣武庫郡西宮町にあり一門悉く榮達せざるはない、世界的大植物學者として、將亦六ヶ國語に通したる語學者として芳名を天下に謳はれた南方熊楠氏は實に氏の令兄で西牟婁郡田邊町に閑居してゐる、氏が醸造にかゝる清酒「遊春正宗」は先年故大隈侯の名付けしもので其名近縣に轟き販路歳に擴大してゐる

前貴族院議員

津村紀陵君

家代々農を以て業とせるも氏が活動の質、多能の資は自ら田園の間に安んずる能はず事業界に身を投じ殊に定期市場に敏腕を振ひ、取引所の改善に盡力した事もあつた、綿密周到なる氏が天資は整理事務に適し一度び亂麻の如く拾收すべからざる取引所を整頓したる後和歌山紡織株式會社社長となり大に快腕を揮ひしこともあつたと、氏は又嚴父の質を禀け温厚篤實にして商才に富み幾多の事業に示せる其手腕の跡を観る即ち明治三十



社長となつた、此間嘗て縣會議員に選ばれ或は所得税調査委員となつた、大正八年上院多額納税議員の互選により貴族院議員に列した、氏の一姉は那賀郡粉河町の豪商にして美顔水の本舗で有名な桃谷政次郎氏に嫁し令閨民子女人は同郡上岩出村福井吉右衛門氏の次女で夫妻の間に一男重紀氏がある現住所和歌山市元寺町南の丁

八年和歌山倉庫銀行の社長となり引續き同四十二年和歌山水力電氣株式會社を起し之が取締役となり大正五年に至り野上輕便鐵道株式會社の

御坊町の素封家

上田金兵衛君

育英の事業に巨費を投ず
町議に推されること三度

人あり明治維新の英傑佐久間象山に向つて蓄財の法を問ふ、象山答へて曰く「片足を舉げて小便せよ」と人其意を解するを得ず更に追究して其深意を問ふた、象山再び答へて「犬の如く恩を忘れ犬如く義理を飲くを得ざれば蓋し蓄財するを得ざるべし」と人喜んで去る蓋し象山の意は尋常素封の家が多く自己本位に墜るを諷刺して人に教示せるものであるされど我が日高郡御坊町の素封家たる上田金兵衛氏は獨り之等の輩と選を異にし、能く散し能く集め恭儉已れを持し豪侈の風なし、常に社會公事業に對しては資を寄するに吝ならず且貧窮なる學生の爲めには千金を投じて人材を養成するに餘念なく爲めに世人の信望日に厚く其人格の高潔なるに人感服せざるはない、君は町會議員に選ばれる、こと三度、常に波瀾多き御坊町政の中にあつて能く之れを調理し町政の爲め獻身的努力を盡しつゝある、氏資性、穩健着實、苟も人と争はずと又得難き人材と云ふべしである、現住所日高郡御坊町

土田金兵衛氏
新法下の諸氏

子寶と財寶を併せ有する

掛下彦十郎君

氏は明治九年五月七日を以つて和歌山市東長町二丁目南川十郎右衛門氏の二男に生れ幼名を信次郎と云ひ全四十四年三月養父なる全市ト半町掛下彦十郎氏の家督を相續し其名を襲ひ彦十郎と改め同家八代の主となつた、掛下家は舊藩時代大年寄を勤め創業既に二百五十年に亘り家代々油商を営みしも先々代より質商を始め氏に至り更に和洋紙商を經營せるも目下廢業し専ら家庭の教育に留意して居る而して令閨花子夫人は先代彦十郎



部にて生物學を修めてゐる三男順吉氏は名古屋八高に四男修吉五男信吉六男慶吉の三君は和歌山中學に七男尙吉君は小學に長女綾子は和歌山高女學校に次女好子三女壽子の二女は孰れも小學に在學中で十人の兄弟姉妹は打揃ふて仲よく健在にして學窓に勤勉しつゝある、氏資性温厚、謠曲と小鼓に趣味を有し先代彦十郎氏又趣味の人として知られ隱居して秋水と改名し茶道俳句をよくし風流三昧に余生を送つた人である。

氏の長女にして七男三女を残して大正十年逝去した、長男彦太郎氏は八高を経て京都帝大理學部にて物理學を次男謹次郎氏は北海道帝大農學

那賀郡の素封家

太田正信君

農村の新人 多藝多能の士

豪家を繼承して驕らず善美相俟つて己を持し世を益するも亦凡人に勝る歟、氏は明治二十四年を以て那賀郡西貴志村の素封家太田家の嗣子に生れ和歌山中學卒業後家に在つて祖父傳來の家産を繼ぎ今日に至つた氏の家は近郷隨一の大地主であつて之れよりの収益のみに於てさへ氏の家實は日に月に増殖しつゝある、祖父の鴻恩や實に感謝すべきである、氏は性洒落恬淡貧者に對して豪慢ならず富者として平民的な新智識の所有者で従つて一般世人より敬慕さるゝ素質を具備してゐる、又多趣味にして多能全て可ならざるはない、氏の叔父に相當する松太綿布株式會社社長にして市實業界の重鎮太田儀右衛門氏は同家より出でたる人にして夙に實業家たらんと志し分家して和歌山市に來り五番町に廣壯なる邸宅を建築し松居善助氏と共に松太合名會社を起し後大正七年に至り遂に株式組織と爲した其他和歌山皮革株式會社取締役及び社長を兼攝し益々その秀でたる才能を以つて實業界に飛躍しつゝある又太田家の名譽と云ふべしである

太 郎 君
五 十 五 歳

謙讓其ものゝ如き富豪

竹 中 德 太 郎 君

温乎たること菩薩の如き容貌と性格とを有する竹中徳太郎氏の嚴父九郎兵衛氏は和歌山市外高松の人幼にして全市三木町先々代米穀商竹中源助氏に仕へ主家大事と忠勤し其非凡なる人材は遂に源助氏に認められ同氏の妻女の妹を娶り竹中姓を名乗り分家して一家を立てた而して源助氏が廢藩置縣に際し舊徳川家經營の海草郡宮村字秋月にありし火藥製造製油水車工場の拂下を受け此處において精米を開始するや氏は同所に居住して其業に従事してゐた、其の時生れたのが當主竹中徳太郎氏である、其後明治



せる擧げて數ふるに違あらずと氏は選ばれて和歌山市學務委員となり常に教育界に多大の貢献を爲しつゝある令閨小雪夫人は本家竹中家と縁戚關係を有する那賀郡安樂川村字神田松山管吾氏の末女にして夫妻の間に一男正一郎氏あり氏は明治十年一月六日生、現在營業所は全市吹屋町

平民的思想の持主

中井長兵衛君

特權階級に人となりて
特權階級を嫌ふ新人

海草郡龜川村隨一の大地主たる中井長兵衛氏は明治十七年一月を以つて同村大字且來先代長兵衛氏の長男に生れ幼名を長十郎といひ家督相續後襲名して長兵衛と改名した、氏資性恬淡にして磊落富豪の嗣子として稀に見る平民的な新人である氏は郷里を捨て現在の住所たる和歌山市芦邊町に移住するに至りし一因にも氏が性格の一端を物語るものである、傳へ聞く偏頗的固陋なる龜川村政に對する不平不満、差別待遇の甚だしき農村における因襲的階級觀念等が氏を轉住せしめたものであると、貴紳の文字さへも之れを嫌ひ一時本篇に登載さるゝを拒みし程の現代新思想の所有者である令閨信子夫人は其一族たる海草郡巽村大字阪井中井徳次郎氏の長女にして既に五女を擧げ長女は目下日方實科高等女學校に在學中である、

梅に愛すべき香あり櫻に愛すべき色あり桃李に各々其宜きあらば其自然を佳とす若し梅に櫻花咲き梅の香を放たば之れを妖とすべし人も斯の如し多くの世人誤るも又此妖に迷ひ此妖を欲すればなり、されど富貴顯紳の特徴を顯はさざる氏の爲人や推知するに難からじ。

丸正吳服店主

松尾正助君

亡父が築いた家礎の地上に
樓閣を建たものは氏である

氏が嚴父正助氏は日高郡松原村濱の瀬湯川宗十郎氏の三男に生れ年十一の時來市して當時唯一の吳服商たりし奥田吳服店に奉公し恪勤廿年一日の如く主家に盡した、松尾家に婿養子として迎へられた後の氏は獨力吳服業を營み孜々汲々其業に精進した賜は遂に明治廿七年十月五日現在の處に店舗を張つた、此父を持つ松尾正助氏は其長男に生れ幼名を安次郎と呼び嚴父逝去後襲名して家督を相續した、堅忍不拔の精神を父より享けた氏は益々家業に精勵し顧客日に月に増し家運愈隆盛を極め店舗の狹隘を告げし爲め大正三年三月五日之れが大改築を行ひ全年六月五日彼の本町二丁目十字街頭に輝く宏壯なる新館の装はなつた、亡父が造つた家礎の地上に樓閣を建てたものは即ち氏である、令閨ヨネ子夫人との間に長女愛子を擧げ目下修徳女學校に在學中である、現住所和歌山市本町二丁目、明治十三年三月二十三日の生、和歌山市における吳服商を思はゞ直ちに丸正吳服店を聯想せしむるに至つた氏の商略と敏腕は宜く商賣の龜鑑となり得るに足るものである、又偉なりと云ふべきである。

健實な老舗丸久吳服店主

清水惣太郎君

古き歴史と健實な營業方針とで世人から信用を厚ふしてゐる和歌山市本町一丁目丸久吳服店の經營者である氏は明治廿四年五月海草郡四箇鄉村大字松島安野惣三郎氏の二男に生れ徳義中學卒業後名古屋高等工業學業に遊

び大正二年同校を了へ全四年清水家に養子として迎へられ養父久四郎氏死亡後家督相續して通稱久四郎の名を襲ひ家業たる吳服商を繼いだ、氏は其遺業を繼承するや放漫なる營業方針を排し健實な



る、令閨初恵子夫人との間に長男文一長女久子の一男一女を擧げ琴瑟相和し家庭圓滿にして常に春風に満つ、母堂ミサ子は本年七十五歳の高齡に達し今尙健在にして全市本町三丁目の別邸に子孫の繁榮を喜びつゝ、樂しき其餘生を送つてゐる、現住所和歌山市本町一丁目、氏の實弟忠男氏は目下京都帝國大學理工科に在學中である

る、令閨初恵子夫人との間に長男文一長女久子の一男一女を擧げ琴瑟相和し家庭圓滿にして常に春風に満つ、母堂ミサ子は本年七十五歳の高齡に達し今尙健在にして全市本町三丁目の別邸に子孫の繁榮を喜びつゝ、樂しき其餘生を送つてゐる、現住所和歌山市本町一丁目、氏の實弟忠男氏は目下京都帝國大學理工科に在學中である

紅巷其名高き風月の主人

戸塚廣三郎君

和歌山番廓内に於ける一異彩

天下の勝地にして樂園境なる紀南に杖をひく者にして一夜の旅情を慰むる粹客たるもの和歌山の花柳に名高き料亭風月庵の名を知らざるべからずである、和歌山市十一番町の一角優雅な板扉をめぐらし門頭高く揚げられし風月庵なる木額、打見る廣大なる庭園に繁茂する鬱蒼たる樹木、同亭をめぐる全てのものが一つとし此里に歴史深き誇りの現はれでないものがない市に於ける大宴會は必ずしも同亭を撰ばねばならぬ程廣大な座敷をも有してゐる、主人戸塚廣三郎氏又俗人と異りたる特長を有し尋常紅巷に見るが如き所謂お茶屋の亭主と趣を異にし人品の崇高なる一頭地を抜いてゐる故に貴顯紳士の私に亭の門をくゞる粹士も多く従つて多くの知名の士から氏は愛遇されてゐる、高官政客の送迎に必ずしも市驛歩廊頭に氏の姿を見るに徴しても肯首される、氏は慶應三年正月十二日の生れにして賢婦の名高き母堂の養育を受けし丈けあつて氏又聰明、能く高貴に接近するの快腕を有し風月の名をして益々天下に高からしめてゐる、氏は一男一女を有し長男富次郎氏は目下家にあり長女霜子は和歌山市新堀本間萬氏に嫁してゐる、現住所和歌山市十一番丁

新和歌浦米榮旅館の經營者

藤村榮藏君

天下の勝地新和歌浦に於ける三大旅館中の随一米榮旅館は今より二百年前氏が祖米屋榮藏氏の創業せるもの、氏の嚴父佐次郎氏に至り和歌浦町字出島に別荘を設け事業を擴張し更に大正二年新和歌浦に宏大なる新館を建築し其後又々和歌山市十二番丁に支店を増設した、氏は藤村佐次郎氏の長男に生れ幼にして慈

母に死別し不自由なる嚴父の手のみに依つて養育された、氏資性淡泊にして義氣に富み至極世話好きである、大正七年湯



が専務取締役となる今春町會議員に當選、引續き和歌浦信用組合監事に和歌浦料理旅館番檢組合長に選ばれ事業のため町政の爲め將又同業の爲め東奔西走、席の温まる暇とてはない令閨ヨシエ子は和歌山市東長町二丁目上野氏の二女にして三男一女を擧ぐ長男善一郎次男市次郎の兩氏は和商卒業後三男榮三郎氏と共に父君の業を助け長女チエ子は實科高女卒業後同町菅野家に嫁した、家庭頗る

圓満、氏は明治十三年六月の生、現住所海草郡和歌浦町。

農本國是を謳歌する

三前伊兵衛君

日高郡南部町の大地主

我國は古來豊葦原瑞穂國と稱し農を以つて國本を爲す處、故來建國の大旨亦茲に存す、文明の新濤浪一度我が沿岸を洗ふや天下靡然として修學の念に驅られ勢の及ぶところ萬民農事を忘るゝの慘狀を呈す何ぞ夫れ農家今日の不振なるや此時に當り三前伊兵衛氏其人あり言論巧みなるの法律家を學ばず文章を誇張するの文學者を學ばず若し不生産的虛學を捨て糞壤塵肥の研究に従ふ吾人の尊仰すべきは這般の人材にあらずして誰ぞや、氏は日高郡南部町の人地方の大地主であつて家代々農を以つて業とす氏は自ら田園を耕せずと雖も志を農事に致し其耕作法の改良に深く意を用ひ小作人をして其收穫の獎勵に念のない性温厚、常に社會事業に財を分ち郡町村に於ける篤行の人、氏の令聞は全郡稻原村字印南原林業家笹野梅一郎氏の叔母にして夫妻婚姻して既に銀婚の期に遠し家運熾にして子孫榮へ日高平原に黄金の波を漂はせつ、萬歳を謳歌して悠々老後の余生を送つてゐる、現住所日高郡南部町字氣佐藤

縣事業界の偉才

瀬戸健三君

國民英學會を出でたる氏は清雲の志を支那大陸に立て、渡支した、幸にも在支大使の知遇を得、通譯を業とし着々其の歩調を進めつゝ支那政界の觀察に余念がなかつた、後歸郷し大正十年紙業會社を創立しこれが社長となり在支當時鍛へに鍛へ上げた外交的手腕と其炯眼は能く業運を善處し大に實業界に飛躍せんとせるの時不幸なる哉日高川の出水に會し工場は流失し氏の將來や春宵南阿の夢と化せんよせざるも堅忍不拔難事に逢つて屈せざる大勇猛心は更に現在の場所にこれを移轉改築し



に南紀事業界の啓發に努力してゐる、其他社會公共事業に貢献せる又妙しとせず、氏は明治八年を以て日高郡藤田村字藤井の素封家に生るゝ、養嗣子して其家督を譲るべく目下大同紙店に勤務せしめ其豫備的實習に隨はしめてゐる、家庭常に圓滿春風に満つの感あり

經營大に努め遂に今日の隆昌を見るに至つた氏資性温厚にして圓滿なる人事業界の人としての氏は南海紙業株式會社社長、妙寺製糸株式會社、日高銀行、日の出紡織株式會社等の重役の職にありて常



陽明の學風に薰育された

平松熊次郎君

祖父は故倉田績先生の門下

世は澆季末法に屬して人情紙よりも薄く社會は腐敗混濁して道義廉耻共に蕩然地を掃ひ邦家の前途洵に寒心に堪へざるの時溘乎たる清節恰も孤松の冬嶺に秀づるが如く鬱然たる正氣幾んど秋霜烈日の如く謹嚴硬直理に據りて正を則り巍然とし心情の高潔なる玲瓏一點の曇りなき秋月にも譬ふべく一種清新の氣を放つ者は有田實業界中の一異彩——平松熊次郎氏其人である、氏は同郡藤並村字下津野の人、家代々酒造をもつて業とせる富豪であり名門家である氏の祖父は紀州の鴻儒倉田績翁に就いて書道漢籍を學ひ翁の學風夙に同家に薰染し氏また其訓育を受く、郡會議員に選はるゝや卓越せる識見圓熟せる思想は能く郡政に寄與する處多くまた酒造組合有田鐵道等の取締役として實業界に飛躍してゐる、氏は人格高邁性温厚篤實、爲めに郡民の信望日に厚く家運月に榮へつゝある氏が醸造に係る清酒また各種品評展覽會に出品して受賞さること數回、氏は慶應元年の生れ夫妻の間に三男一女あり、長男太一氏は目下家にあり父君の業を助け次男は郷村にありて郵便局長を勤め三男は大學助手より轉じて目下三菱に在勤してゐる氏は繪畫を好み、また生花をよくす就中生花は其奥義を極め既に大家の風格がある

縣下最古の肥料商

和田藤藏君

新進氣鋭の少壯實業家

縣下最古の肥料商として創業既に百數十年の歴史を有する和歌山市米屋町和田藤藏商店の當代は幼名を藤太郎と呼び先代藤藏氏の長男に生れ大正九年嚴父死去後襲名して家督を相續した氏は明治廿五年五月一日を以て現住地に生れ幼時より學業他の兒童に擡んでてゐた氏は和歌山商業學校出身の秀才で同校卒業後は祖父傳來の家業を継家である、氏は資性温良にして柔順、されど商機を捕ふるに敏捷なる烟眼は氏の將來を囑望せしむる所以のものである、店舗の見るから古風なその落付きある構へは流石に古き歴史と裕福なる家實と温乎なる店主を抱擁せる一城廓たるの觀がある、一家團欒として和氣霽々常に春風に滿つ



承して其業に精勵し日夜家運の隆昌ならんことに努めた其効空しからず益々其基礎を鞏め和田家萬代の泰きを致さしめた新進氣鋭の少壯實業

熊野實業界の勇者
玉置伊兵衛君
敬神の念強く人格高邁
現高芝銀行の頭取

熊野實業界の勇者

玉置伊兵衛君

敬神の念強く人格高邁
現高芝銀行の頭取

氏は東牟婁郡下里村字高芝の舊家にして大山村たる玉置家の嗣子に生る家代々林業を以つて家業とせり故に氏も亦其家督を相續して其業に従事した氏は曾て太田、古座川筋を根據として大々的木材業を起し遠く九州並に大阪の市場を活動舞臺として飛躍し着々功を奏し其聲望實業界に高く其信用斯界に厚く家運益々繁榮を極めた氏は今や高芝銀行の頭取として地方財界の覇を握つてゐる、氏齡既に知命を過ぎたりと雖も元氣鏗鏘として壯者を凌ぐの概あり又以つて青年實業家の學ふべきものがある、資性温順にして雅量あり氏は一度其欲する處に向つて進まなかあたかも天馬の太空を馳せるが如く其勇猛の猪突に驚愕を喫する人士もある然れども常に寡言沈黙の人にして敬神の念強く神佛を歸依すると一方ならず一舉一動口に名號を稱へつゝ感謝の生活を送つてゐる、爲めに世人の信望益々厚く實業家として稀に見る人格高邁清廉潔白の士である、氏年漸く老いたりと雖も手腕力量未だ老いず自愛以つて長壽し邦家の爲め尙將來の奮勵を庶幾ふ現住所東牟婁郡下里村

歴史古き原正組——

原 庄 右 衛 門 君



原正組は文化三年三世の祖原庄太郎氏の時紀州藩主大普請拜命に創り爾來代々藩工事に貢献する所あり就中港灣築工及友ヶ島舊砲臺改築の如きは遺蹟として人口に膾炙する所、氏は明治五年十月海草郡加太町に生れ同廿二年齡十八歳にして原家に入籍した日本土木會社技師工學士三好清之助氏に師事して土木業の要素と實驗を究め後家業を襲ぐに及び熱誠部下の指導に務め温情寔に掬すべきものがあつた又其稜々たる工し當時の知事池松氏をして賞讃せしめ遂に新記録を作りて表彰せられしが如き以つて其性格の一端を窺知するに至るもので其他賞杯感謝狀等を授與されし事枚擧に遑あらずと云ふ、令閨英子夫人との間に重子静子豊枝續稔子の五女及び庄太郎政路鏞次郎の三男男あり長女重子は市内小野町三丁目松尾和彦氏に嫁し長男庄太郎は和歌山商業學校を卒業し目下父君の業を援けてゐる

俠骨は萬般の公共並に冒險的事業に非常な興趣を有し實力の發揮に努めた爲めに業運年と共に進み覇を斯界に握るに至つた大正七年北島橋架設に際して八萬二千圓の大工事なりしに其契約期限よりも五十日間を短縮して竣

熊野水門



登阪御殿の主人公

山 口 敏 夫 君

美を盡した邸と其の庭
— 事業界大先輩の遺児 —

集めて以つて喜び散じて以つて樂む、世の富豪者流深く此人を羨望して可ならずや、氏は東牟婁郡北山村山口敏亮氏の嗣子に生れ、齡既に不惑に達す、氏が嚴父敏亮氏は新宮水力電氣株式會社を創設せる人にして熊野事業界の大恩人であつた、氏性來令劑聰明、嚴父の遺血を享けし丈けあつて商機を捕ふるに妙、商才能く之れに乗じて巨利を博し、遺業たる木材の業氏に至りて益々榮へ熊野木材業者多數の中にあつて能く其首位を占め以て今日ある所以のものは先代預つて力ありと謂ふべきも亦氏の努力奮勵に依る功績決して尠しとせず、氏資格温和にして磊落、剛膽にして細心、人接するに温良なるも事業に對しては猛勇、豪放なるが如く小心翼翼爲めに氏は未だ嘗て事業に蹉跌を見ずと。現在人口に噂々されつゝある登阪の御殿は實に壯大華麗贅を盡したもにして數奇を凝らせる其庭園は氏の設計に成るものと聞く、氏は此處を安居の地ととし天の美録に激忙の疲を慰し忙中の寸閑を得て趣味の世界を作つてゐる神倉のおろし御手洗の濤共に之れ氏が唯一の友であらう

山田 夫 著

「小作農問題」の先覺者

佐本清右衛門君

時代の進運に伴ふ思想の變化は新陳代謝しつゝある社會に顯はるべき當然の現象であつて頑迷固陋なる封建時代の舊思想は到底現代には容れらるべきものではない新舊思想の衝突が即ち地主對小作の争議となつた茲に於て必要の餘義なきに至らしめたものは勞資協調の機關である此時代思想の渦巻を沈靜せしめんとする者に佐本清右衛門氏がある氏は那賀郡東貴志村の人家代々地方の大地主として名を知られた豪農である氏又祖父傳も勞資感情の融和に努め現代農村稀に見る先覺の士である爲めに近郷農民にして氏の徳望を敬慕せざる者なし氏資格温良謹嚴にして謙遜辭讓嘗て風勵卓發の鋒鉞を露さず以て身を保つに恭儉の素あるを知る亦常に社會公共事業に盡すに吝ならず氏は明治十七年十二月の生れ和中出身の秀才にして令閨との間に一男を擧げ内にあつては圓滿なる家庭の主人公として多幸なる日を送つてゐる



來の田畑より收穫する米麥に依つて益々其財を増しつゝあるも然し氏は溢るゝが如き温情を以つて勞農者を愛撫し時には利害を度外視して迄

日高隨一の大林業家

笹野梅太郎君

白濱自動車會社取締役

紀伊の國は大平洋に突出せる一大半島にして地形極めて複雑なる一大高原性の半島である、山嶽は國土の全面を蔽ひ山脈西南より東北に連亘竝走し、幾多の支山脈南北に走り山勢縦横に紛糾し木の國の名稱の又依つて起る所以のもの茲にある、爲めに本縣に於ける大商賣たるや林業家たるに及ばない、笹野梅太郎氏亦其一員として家代々林業を家業とし多くの所有森林より産出する山産物の生産能率の増進に努力し今や日高郡内における鏘々たる林業家として其名高く家運益々隆盛を極めてゐる、氏は性温和着實、温乎たる其容貌人をして敬慕せしむるの美德を有してゐる、また氏は博愛の心深く常に社會公共事業に盡力する處甚大なるが故に地方民の信望夙に厚し、事業家としての氏は白濱自動車會社取締役の現職にあり令弟雄次郎氏は印南郵便局長を勤め、元日高セメント株式會社、常務取締役小川政次郎氏は實に氏の次弟である、現住所日高郡稻原村大字印南原

縣下染料界の先驅者

瀧波芳太郎君

縣下に於て最も古き暖簾を有する染料商の經營者である氏は明治維新の世は末だ騒然たる同二年孤々の聲を和歌山市本町一丁目に擧げ亡父佐右衛門氏の愛息として多くの奉公人に尊崇され長じて亡父の遺産と遺業を繼承した幸運兒である嚴父は商才烟眼を有し夙に時運の趣く所を觀察し殊に紀州ネールの産地たる關係上將來其需要の多からんとに着眼した、氏亦嚴父の遺血を受け専心一意家業に精進した結果は業運益々榮へ今日に至る宏壯な別邸に愛好する書畫骨董を翫賞し或は茗を啜り風月を友として悠々余生を送つてゐる、氏は仁俠に富み私財を投して育英の業に力を致し其の他公共事業に巨費を寄附せるなど擧げて數ふるに道あらず、令閨久枝子は那賀郡麻生村阪上平兵衛氏の實姉であつて夫妻の間に一男芳尙氏を擧ぐ琴瑟相和し家庭常に春風に滿つの觀あり。



つた、氏は日高紡織株式會社取締役大正綿布株式會社監査役義勇表彰會名譽會員等の現職にあり店務一切は令息芳尙氏に譲り同市六番町に在

那賀郡に於ける實業界の巨星

八塚常一郎君

早大經濟科出身の秀才で
創業百五十年來の酒造家

八塚家は家號を本駒屋と稱し累代酒造を以つて業とし今に至る創業百五十年の久しきに亘り爾來
連綿として當代に至る舊家である、氏は明治十八年七月父彌三郎氏の長男に生れ幼時より學業順調
に進み和歌山中學校卒業後東都に遊び同四十年遂に早稻田大學經濟科を卒業し郷里に飯りて父君の
家業たる酒造業に従事した、八塚家の清酒は品質佳良にして各地品評會共進會博覽會に出品して常
に高級の賞牌を授けられた醸造高今や一千石に達し家運益々隆昌を極め氏は伊那酒造組合副組長に
推され同業の爲め活動しつゝある、資性聰明にして商才に長じ往々斯業の老練家をして驚歎せしめ
てゐる、曩に縣立粉河高等女學校の設立問題起るや寢食を忘れて之れに狂奔し遂に之れが設立を見
るに至つた。令閨千代子夫人は同郡小谷貞次郎氏の令妹にして長男純男次男泰宏三男眞邦の三男を
擧げ目下愛兒の教養に親しんでゐる、氏は書畫、音樂に趣味を有し家業の傍之れを愛好するを無上
の悅樂としてゐる、現住所那賀郡粉河町

教育家より實業家に……

鈴木喜平治君

西牟婁郡潮岬村字上野鈴木喜平治氏は同村小川平右衛門氏の長男に生れ幼名を豊吉と云つたが先代喜平治氏の養子となりその家督を繼ぐに及び其名を襲つた氏は最初教育家たらんことを望み和歌山縣立師範學校を卒業し數年間奉職各地において教鞭を執つてゐたが鈴木家に迎へらるるや養父の業を繼ぎ大阪市西區



立賣堀通二丁目到店舖を有し東京市に出張所を置き紀州材の販路擴張に努力し今や業運盛々榮へ先代の遺産たる膨大なる

しとあり今は大阪市岡土地會社の監査役潮岬銀行頭取の現職にあつて實業界にあつて飛躍してゐる令閨静枝子夫人は西牟婁郡田邊町醬油醸造業小安吉氏の令妹にして前代議士小山谷藏氏の從弟である夫婦の間には長男忠夫君あり目下和歌山中學に在學中、氏の令妹トシ枝子は大阪市西區立賣堀辯護士鈴木眞一郎氏に嫁してゐる、嗜好は園藝、氏は西牟婁郡潮岬に原籍を有せども和歌山市眞砂町に宏大なる別邸を新築し妻子と共に此處に居住してゐる、明治二年八月十五日生

山林に繁茂する樹木と共に氏の財産は年を追ふ生長して行く氏は曾て居村の村長を勤め村政の爲め大に盡瘁し又紀水捕鯨株式會社取締役たり

老舖「池重」の名高き

池田重兵衛君

其祖は池田泰庵と云つて
紀州公の御殿醫であつた

氏は明治十三年九月廿日を以つて和歌山市西鍛冶屋町八番地池田重兵衛氏の長男に生れ幼名を政之助と呼び嚴父死亡後家督を相續して其名を襲ふた、氏は舊藩當時御殿醫たりし池田泰庵氏の後裔であつて祖先は代々醫伯たりしも後藥種商を營み連綿として當代に至つた舊家であり大家主である氏は和歌山中學出身にして性剛直にして謹嚴、所謂昔堅氣の人である、爲めに同業者間の信望厚く推されて和歌山藥業組合評議員の現職にある、令閨は前市會議員にして富豪な高井勘藏氏の長女満壽子夫人にして既に二男一女を擧げ長男正一郎氏は目下和歌山中學在學中である、氏の令弟に同苗健兒氏がある氏は同市元博勞町に分家して一家を樹て強壯劑打老兒丸の本舖として藥種商を營んでゐる、母堂キヨノ刀自は齡既に古稀に達せども鏗鏘として壯者を凌ぐ勇氣あり今尙健全にして氏と共に悠々余生を送つてゐる、藥種業の老舖「池重」の名近郷に高き又所以なきにあらざるなりである現住所和歌山市西鍛冶屋町八番地。

實業家にして茶味に富む

渡邊綱五郎君

氏は海草郡中之島村亡渡邊邦藏氏の長男に生れ明治卅九年八月和歌山市畑屋敷に轉籍し大正九年更に小松原通三丁目に轉籍した、氏の性恰劑にして商機を見るに敏なるを以つて遂に巨商となり大實業家と成るに至つた、

和歌浦における宏壯なる別荘は其成功を物語るもので今や和歌山綿布株式會社長の職にある尙公職としては市會議員に當選すること二期次いで參事會員となり今現に其職にあり常に市の爲に貢献し



帝大工科を卒業後大阪鐵工所因島工場及び東京大島製鋼株式會社の技師長たりしが今は日本海事協會の主事となつた、氏は劍道に達し又茶道をよくし忙中の寸閑を得て茶庭を張り風月を友として數奇三昧に入つてゐる、明治五年十月十二日生、現住所和歌山市小松原通四丁目

帝大工科を卒業後大阪鐵工所因島工場及び東京大島製鋼株式會社の技師長たりしが今は日本海事協會の主事となつた、氏は劍道に達し又茶道をよくし忙中の寸閑を得て茶庭を張り風月を友として數奇三昧に入つてゐる、明治五年十月十二日生、現住所和歌山市小松原通四丁目

草加與兵衛君

實業家として政治家として
名望共に厚き好個の紳商

由來紀州熊野は偉人英才を産出す、就中新宮に於て其多くを見る、氏又新宮人として先天的偉傑の質を稟けて生を享く、幼より衆に優れ長じて新宮中學に入る學業操行共に群を抜き將來を囑望された有爲の青年であつた、果せる哉氏は嚴父の遺産と遺業を繼ぐに及び秘められたる氏が才能は氏が事業の上に顯はれ家業益々榮へ鏘々たる實業家として信用と名望は日に厚く月に高く遂に選ばれて町會議員となり町政に盡す甚大なるものあり氏が卓越せる政的力量は又町民の信頼を敦くし氏の名聲歳を追ふて擴まりつゝある、氏性温和にして情に厚く爲めによく人に恵み以つて之れを快樂としてゐる、亦日常の一舉手一投足にも其性の發露を見る即ち尋常商人の如く人を使役するに商略的ならず自ら身を以て之をなすの美風がある、更に町政を調理するにも其叫ぶ處公明正大にして些の私心なく常に新宮町民を本位とせるもので氏に依て町民の受くる福祉亦決して尠くはない、氏は今や熊野實業政治兩方面に於ける重鎮として世人から重用されてゐる。

立志傳中の人
有本虎之助君

立志傳中の人として實業家有本虎之助氏を推したい氏は明治五年九月和歌山市同心町井内楠右衛門氏の三男に生れ幼にして伯母婿に當る有本家に養はれて家名を繼ぎ或は見習奉公に或は獨力自營して賣商たる素質を養ふ可く困苦の十五星霜を閲した、歳廿六にして全市茶屋町に於て綿ネール業を開始し氏が不撓の精神は能く業績を良好に導き孜孜營々たる其努力は日に月に氏の幸運を開拓した、此資性謙讓の美德に



立志傳中の人として實業家有本虎之助氏を推したい氏は明治五年九月和歌山市同心町井内楠右衛門氏の三男に生れ幼にして伯母婿に當る有本家に養はれて家名を繼ぎ或は見習奉公に或は獨力自營して賣商たる素質を養ふ可く困苦の十五星霜を閲した、歳廿六にして全市茶屋町に於て綿ネール業を開始し氏が不撓の精神は能く業績を良好に導き孜孜營々たる其努力は日に月に月に氏の幸運を開拓した、此資性謙讓の美德に

にある、令閨君子夫人は同市新通三丁目故湯川常楠氏の長女で長男佐太郎君は今春明治大學商科を卒業し目下自宅にあり次男茂樹、三男武夫、兩君は共に和中に在學し長女富子は全市ト半町宮本一亮氏の令弟敏彦氏を婿養子に迎へ分家して全市新中通二丁目に於て綿ネール商を營んでゐる、現住所和歌山市新中通三丁目

山口 孫七君

一事一業に熱中するの士
實業家中稀に見る人格者

古人は一事一業に熱中して年を重ねて變らざるものと呼ばれて十年一日の如しと云へり然るに我山口孫七氏に至つては夙に酒造業に従ひ二十年一日の如く實業の興振に盡力して怠らず古人も亦顔色なからんとするが氏は海草郡山口村字里孫次郎氏の二男にして明治十八年三月十五日を以つて孤々の聲を擧ぐ、氏は亡父の遺業を繼ぐや熱誠理を踏んで憶せず、されば歳々家榮に今や多額納稅者として其醸造石數の如き海草に於ける同業者の上位を占め品質の佳良は益々其名聲を高め各種品評會共進會等に出品して受賞せること再度ならずと、氏は有田郡保田村大字山田原故先代上市市郎兵衛氏の次女にして現南海水力電氣株式會社社長上市市郎兵衛氏の實姉シダ子を娶り一男二女を擧ぐ長男孫市君は目下和歌山中學に在學中である、趣味の人としての氏は書畫骨董を好み舊幕當時居村に紀州公の山口御殿ありし關係上明治維新當時先代が其拂下げを受けしもの多く之れを愛翫して無上の樂しみとしてゐる、所藏品中名器又少からずと現住所海草郡山口村大字里二百卅三番地

山口 新 子 隊

山口新子隊の活動は、戦時中、女子挺身隊として、戦線を支え、戦後、社会復帰を期して、各種の社会事業に活躍した。この写真は、戦時中の活動の様子を捉えたものである。隊員たちは、整然とした服装で、士気高く立列している。背景には、戦場の荒廃した風景が写し出されている。この写真は、山口新子隊の歴史を伝える貴重な資料である。

酒造家にして政治に志す

谷 口 良 一 君

權威も頼むべきに非ず富貴も依るべきにあらず將た功名も安んずべきにあらず、是れ社界は常に戦場なればなり、人心は仇敵なればなり、刻一刻日一日、安心息氣する能はざるは生ある者の常なり、されば浮世を戦場として茲に背水の陣を布く寔に處世の妙諦たらんとせんやである、而も能く時代の潮流に乗つて時に激流に遇ふも倒れず終始一貫奮闘的の士こそ眞に信頼すべき戦場の勇士たりと謂ふべしである、

氏は明治十九年十二月十九日を以つて定之助氏の次男に生る海草郡山口村谷口家の婿養子として迎へられ其家督を繼ぎ家業たる酒造の業を繼承するや一意専念奮



氏は明治十九年十二月十九日を以つて定之助氏の次男に生る海草郡山口村谷口家の婿養子として迎へられ其家督を繼ぎ家業たる酒造の業を繼承するや一意専念奮闘努力を吝まず斯業に精勵した其賜は遂に今日の隆盛を見るに至つた、氏は又政治に志し推されて郡會議員となり郡治に盡す處多く今や其信望益々厚し氏が醸造に係る清酒又品質優良各種品評會共進會に出品して受賞し家運の繁榮と共に其名愈々高し、夫妻の間に一男三女あり伉儷睦まじく家庭圓滿、常に春風に滿つ、現住所海草郡山口村字中筋日延、營業所同村字里。

捺染工業の大成功者

池目増次郎君

高工出の優秀な技術家
納定染工所の経営者

工業界の幸運児にして捺染業に成功せる池目増次郎氏は和歌山市新中通二丁目染糸業池目庄一郎氏の令弟であつて和歌山中學を経て名古屋高等工業學校に學びし同校出身の優秀なる技術家である氏は卒業後同市新雜賀町において店舗を構へて染料商を開始した、時恰も歐州戦亂の餘波を受けた好況時代に會遇し商機を觀るに敏捷な氏は其企圖する處一つとして當らざるはなく一躍巨富を得て市における錚々たる新進實業家として謳はるゝに至つた、大正八年松太綿布株式會社の分工場たりし海草郡宮村納定にある現在の工場を買ひ受け納定染工所と命名して捺染業を始めた、其膨大なる建物及び敷地は個人經營の工場たるを疑はしむる程壯大なものである、氏資性温厚着實一度氏に接せんか誰か舊知の如き感懐かざるはなく常に和顔愛語能く人を懐かしむの徳あり故に職員職工に至るまで宜く其職に忠實にして製品の優良は製産の増加と共に益々其業を繁忙せしめてゐる、氏が營業の方針や健實其ものゝ如く爲めに信用日に厚く縣有數の大工場たるを失はない氏は又全所に日本染業合資會社を組織して之れが代表社員となつてゐる、氏の令閨美佐子は那賀郡粉河町砂糖商力谷家の息女にして夫妻の間に一男二女を擧げ長男忠男長女秀子は目下小學に在學中二女政子は未だ夫人の保育を受けてゐる氏年齢將に四十、現住所海草郡宮村字納定

海草郡西和佐村長として將亦郡會議員として政治的に其名を知られたる酒造業沼平助氏の長男に
 生れたる氏は幼名を俊一といひ明治廿一年二月を以て同村字岩橋に生れた、幼少にして嚴父に死別
 した氏は慈母の手一つに依つて養育され長するに及び和中卒業後農林校に見學生として農林の學を
 修め後東京小網町な
 る醬油醸造業濱口吉
 右衛門氏方に勤務し
 て商業の實習をなし
 歸郷後家督を相續し
 て家業に就いた、性
 温和、令閨光子夫人
 り令妹靜子は奈良縣葛城郡葛城農學士喜多長左衛門氏に嫁し一子を挙げしも夭死した、氏の母堂富
 子刀自は實に村郷稀に見る賢婦女丈夫にして沼家今日の存續は女史の力や預つて功ありといふべし
 である今尙健在にして和歌山市中の店中の丁の寓居に住し悠々余生を送つてゐる、又近來全市眞砂
 町に廣壯なる別邸を新築しつつある、現住所海草郡西和佐村大字岩橋

海草郡の素封家

沼 平 助 君



海草郡西和佐村長として將亦郡會議員として政治的に其名を知られたる酒造業沼平助氏の長男に
 生れたる氏は幼名を俊一といひ明治廿一年二月を以て同村字岩橋に生れた、幼少にして嚴父に死別
 した氏は慈母の手一つに依つて養育され長するに及び和中卒業後農林校に見學生として農林の學を
 修め後東京小網町な
 る醬油醸造業濱口吉
 右衛門氏方に勤務し
 て商業の實習をなし
 歸郷後家督を相續し
 て家業に就いた、性
 温和、令閨光子夫人
 り令妹靜子は奈良縣葛城郡葛城農學士喜多長左衛門氏に嫁し一子を挙げしも夭死した、氏の母堂富
 子刀自は實に村郷稀に見る賢婦女丈夫にして沼家今日の存續は女史の力や預つて功ありといふべし
 である今尙健在にして和歌山市中の店中の丁の寓居に住し悠々余生を送つてゐる、又近來全市眞砂
 町に廣壯なる別邸を新築しつつある、現住所海草郡西和佐村大字岩橋

西風相之助君

政治的敏腕家にして義氣あり
那賀郡中稀に見るの大人物也

氏は那賀郡粉河町吳服商西風清五郎氏の長男に生る氏の嚴父は曾て同町紀伊銀行の支配人として同町財界の霸王として將た町隨一の大吳服店として實業界の重鎮として其令名を謳はれた那賀郡人中の大立物であつた、嚴父の遺血を享けた資性又聰明にして英邁、人格高潔にして才能あり亡父の遺業を繼ぐや年來の宿志一時に實業界に飛躍するあり嚴父の名を辱しめざるの人材である、氏亦町政を憂ふるの士にして進んで出で、町會議員となり侃諤の論議を議場に闘はせ赤誠以つて町政に貢獻した、氏は町政を處するに公明正大一つの私心なく只町民の福祉増進同町の開發繁榮に對して大勇猛せしを以つて町民の信望厚かりし反面亦政敵をもうけ氏をして政治的に苦しめしものもある最近迄優良町長として町民の信賴を深くせし氏をして町長の役を辭せしむるの余義なきに至らしめた其遠因もかゝつて茲にあるを信する、政友本黨和歌山支部長西風重遠氏は實に氏の令弟であつて兄弟出色の譽ある西風家の名譽とすべきである、氏年齢正に還暦に幾何もなし折角自愛を望む

丸柄銀行専務取締役
道本爲吉君
氏は海草郡雜賀村大字關戸豪農故中野文吉氏の次男に生れ長じて那賀郡丸柄村富豪道本孫四郎氏の婿養子となり同氏の長女澤子と結婚し家督相續した、氏は和卒業後笈を負ひ帝都に遊學し稻門を卒業した明治四十年志願して歩兵六一聯隊に入營し翌年除隊後在郷軍人分會長に推され同四十年株式會社丸柄銀行専務取締役に選ばれ大正二年粉河中學劍道教師となり同八年郡會議員に當選し或は村會議員となり郡村政のため貢献する處るは偏に之れ氏が功績に依るものであらねばならぬ、氏性温厚頗る社交に長じ毫も不遜の態度なく従つて老幼婦女に至るまでも深く氏を敬慕せざる者はなく其人格の高潔は里人推賞の的となつてゐる、令閨サツ子夫人との間に五女を挙げ家庭頗る圓滿、氏は武術を好み劍道二段の有資格者である現住所那賀郡丸柄村大字丸柄一四二番地、明治十四年四月二十八日の産

丸柄銀行専務取締役

道本爲吉君

氏は海草郡雜賀村大字關戸豪農故中野文吉氏の次男に生れ長じて那賀郡丸柄村富豪道本孫四郎氏の婿養子となり同氏の長女澤子と結婚し家督相續した、氏は和卒業後笈を負ひ帝都に遊學し稻門を卒業した明治四十年志願して歩兵六一聯隊に入營し翌年除隊後在郷軍人分會長に推され同四十年株式會社丸柄銀行専務取締役に選ばれ大正二年粉河中學劍道教師となり同八年郡會議員に當選し或は村會議員となり郡村政のため貢献する處るは偏に之れ氏が功績に依るものであらねばならぬ、氏性温厚頗る社交に長じ毫も不遜の態度なく従つて老幼婦女に至るまでも深く氏を敬慕せざる者はなく其人格の高潔は里人推賞の的となつてゐる、令閨サツ子夫人との間に五女を挙げ家庭頗る圓滿、氏は武術を好み劍道二段の有資格者である現住所那賀郡丸柄村大字丸柄一四二番地、明治十四年四月二十八日の産



多く目下は財界の人として銀行事務にのみ携はり行員を督勵し零細の財を蒐めて之れを利殖せしめ貯蓄を奨勵し着々として事業の進みつつある

現住所那賀郡丸柄村大字丸柄一四二番地、明治十四年四月二十八日の産

手腕思想人格共に圓熟せる

蘭 喜 太 夫 君

其祖は泉州岸和田藩の家臣
郡小實業家中の一異彩

蘭家の祖先は遠く泉州岸和田の城主岡部氏の藩臣であつたが故あつて庶民に下り日高郡鹽屋村に來りて土着した後明治年代に至りて全郡御坊町に移住して今日に到つた、蓋し現今の同氏は富豪として縣下長者番附の幕内に列せるは祖先傳來の遺産の大なりしと當主蘭喜太夫氏の奮闘と努力が能く今日の富を爲さしめたものである、氏は温厚篤實の士、頭腦明敏、活達なる實業家として將亦紳士として一點批難するなき高邁なる人格の所有者である故に其信望日に厚く常に町民より敬慕されてゐる往年政治に志し町會議員となりて町政に盡瘁し所得税調査委員に選ばれ或は聯合組合長に推され或は日高川水力電氣株式會社の設立さるるや之れが社長に任に就き或は日高銀行取締役に推され或は日高肥料合資會社を組織して代表社員となり實業界に飛躍して非凡なる手腕を揮ひて自他を利益したる儘に郡小實業家中の一異彩である、氏は文久元年十一月を以つて全郡鹽屋村に生る、氏の手腕思想は今や年と共に圓熟し人格の高潔なると共に完璧の域に入れりと謂ふも又過言ならざるべし

銘酒「帝光」の醸造元

米田孫右衛門君



紀伊平野の心臓部たる那賀郡の中心を従貫して大古より藍紫の如き一水を流すもの之れ紀ノ川である其支流を廻る五十町の地点に宏壯なる倉庫及び住宅を連ね白壁を巡ぐらせしは酒造家米田孫右衛門氏である氏は幼名を守氏と呼び明治卅九年縣立和歌山中學校卒業後大阪高等豫備學校に學び四十年全校を卒業し郷里に歸り酒造業に従事しつゝあつたが遂に嚴父世を去りし爲父の名を繼ぎて孫右衛門と改名した氏の家は代々酒造を業出品して賞牌を授與されたこと尠くはない加ふるに地方到る所全酒を愛飲するもの多く販路益々博し、氏は新進の實業家として將來を囑望されてゐる令閨との間に二男一女あり古來より有名な國主淵を一目に眺めて一家和氣に滿つ、現住所那賀郡中貴志村大字神戸五二一番地

とし年一千石以上の多數を大阪及び滿鮮地方に輸出してゐる米田家の清酒は品質優良(帝光)の名聲益高し又各種品評會共進會、博覽會等に

支那大陸に飛躍する

池田伊三郎君

若松市に木材問屋を
大連に醤油醸造業を

氏は元治元年二月大阪府泉南郡尾崎村池田市次郎氏の三男に生る、氏の前半生は幾多の波瀾と動搖に苦慮しつゝ後半生は市一流の實業家として今日に至つた、氏は目下和歌山市外高松に醤油醸造場を設け日向國に森林を有し若松市安政町に支店をおき木材問屋を営みまた大連市西通りに支店を設け同所にも醤油醸造場を設置して滿州、青島、上海、天津等に販路を有し其醸造にかゝる龜甲井印の醤油は風味佳良、各種品評會共進會博覽會に出品して受牌すること數知れず其聲名益々廣く販路愈々擴大しつゝ、あり氏は目下概ね令息に店務を譲り只其監督をなすに過ぎない令閨ヤス子は郷里尾崎村古谷家の息女にして一男一女をあぐ、長男源次郎氏は早稻田大學商科を卒業し大阪市西區本田町半田市太郎氏の息女秀子を娶り目下市外高松に住居し長女品子は婚養子を迎へ分家して一家を立て和歌山市豊原町に邸宅を構へてゐる、氏資性豪膽、商機を見るに敏なるを以つて能く支那大陸を舞臺として其非凡なる手腕を揮ひ以つて活動の天地を開拓した亦壯なりと謂ふべしである。現住所和歌山市十二番丁

名望内海灣頭に轟く

木下吉兵衛君

安政五年八月二十六日を以つて海草郡内海町名高先代木下吉左衛門氏の二男に生れ明治九年六月一日分家した、當代七左衛門氏は即ち氏の令兄で身を貧賤より起して成功せる一代の手腕家である氏も又先代七左衛門氏の遺血を享けて資性頗る敏捷能く時運の機微を穿ち獨力奮闘遂に克く今日の財寶と地位とをかち得たる人である、家業傘及び山産物問屋を營み家運日に月に愈々榮へ令兄七左衛門氏と共に地方に於ける勢力名望合せ得るに至つた、令閨泰



滋(同四年生)同尙子(同五年生)等にして滋藏氏夫人は那賀郡粉河町井原利一郎氏の二女にして大正元年十二月十三日華燭の典を擧げた、水火の難を避くる者爰ぞ饑餓の苦を知らんや神靈常に多難の人に與みし常に多用の士を照らす今や氏の名望内海灣頭に轟く決して偶然ではない

子(明治五年一月廿四日生)は和歌山市新中通三丁目川村徳藏氏の長女にして家族は長男滋藏(明治十八年生)同妻マツ子(同廿三年生)孫吉嗣(大正二年生)同準

支那大陸に飛躍する

九鬼千代治君

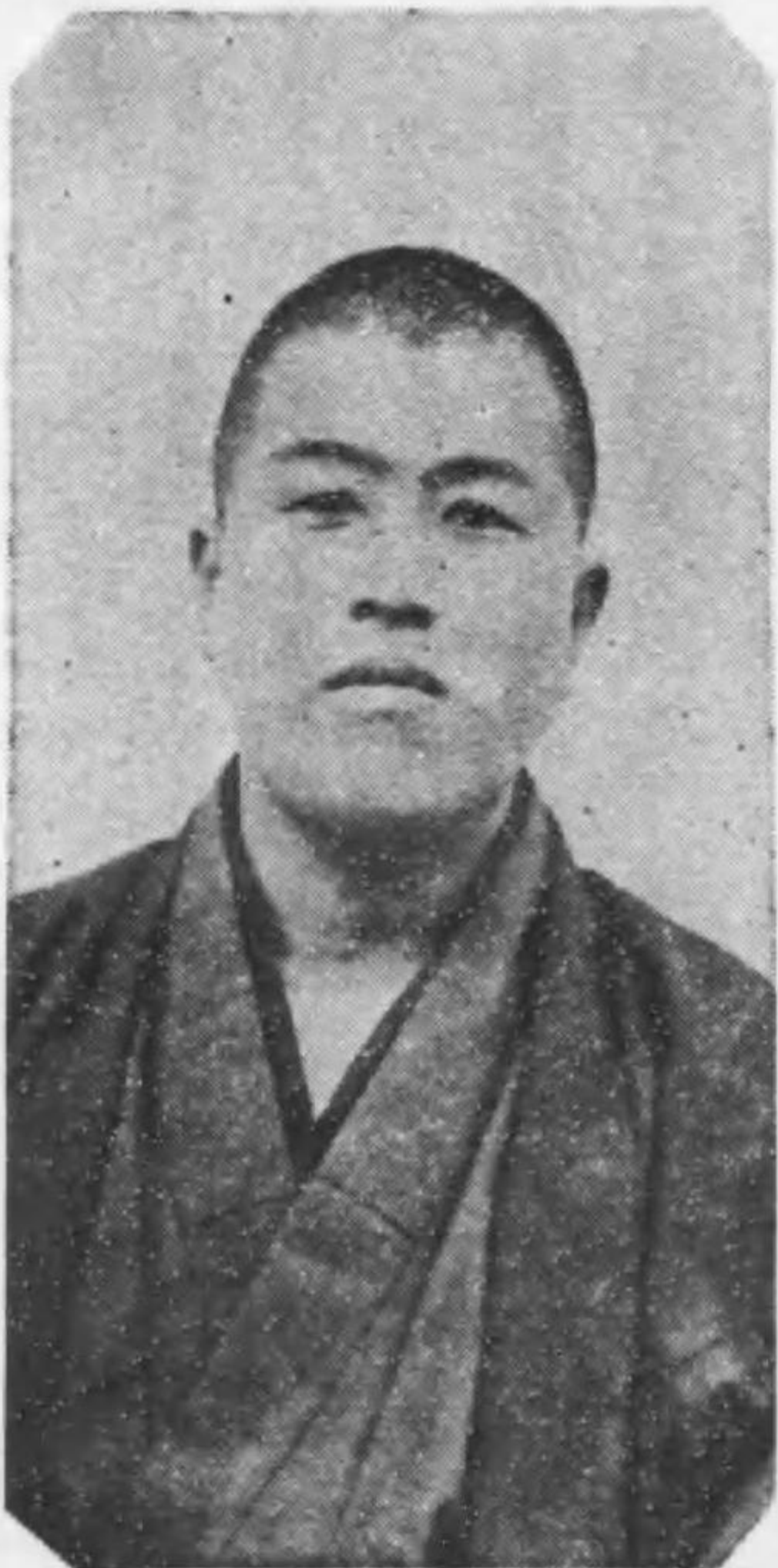
皮革製造販賣に成功した

天津奉天に支店を有し支那大陸を得意として年々巨額の皮革を輸出しつゝある九二製革所の經營者九鬼千代治氏は日高郡矢田村字小熊の人、明治廿七年九鬼家に婿養子として迎へられ養父死亡後幼名寅之助を改めて襲名し其遺業を繼いた、氏資性豪膽にして沈勇あり氏が此性は宜く男性的皮革業に適合せるか常に支那政情の變動を窺知し動亂ある毎に軍需原料品たる皮革の商談に漁夫の利を得、年と共に氏の財實は倍加しつゝ今日に至つたのである、氏は和歌山商業會議所議員に選ばるゝこと三度今現に其職にある夫妻の間に四男三女あり長男隆一氏は商業學校卒業後自宅にあつて父君の業を助け海草郡中の島村裕榮助氏次女千代子を娶り次男文一氏は和歌山中學卒業後和歌山ト半町中谷家を相續し三男賢三氏は和歌山商業を卒業し兩弟共に店務に従事し四男光宗君は目下小學校在學中である、長女政子は海草郡四ヶ郷村字有本有本喜一郡氏を婿養子に迎へ天津支店長として在勤し夫妻共に同地に居住してゐる、三女隆子は和歌山實科高等女學校を卒業し今尙家庭にあり家政の内助をしつゝ各種儀禮のお稽古に餘念がない、五女澤子は實科高等女學校に在學中で家庭頗る圓滿近年全市有田屋町に宏大なる邸宅を新築し一家族は此處に團樂の歲月を過してゐる、氏の令兄越々徳太郎氏は實家を相續し郷里日高郡矢田村大字小熊にある、氏は明治二年十一月十日の生

「山櫻印」醬油釀造元

西本幸三郎君

氏は明治十四年を以て海草郡和歌浦町西本幸之助氏の次男に生れたるも令兄現和歌浦町會議員西本幸次郎氏分家して一家を樹て酒造業を創めしを以て嚴父の家督を相續して其遺業たる醬油釀造業を繼ぎ以來一事一業にして年を重ねて變らず孜々として其業に精進し以て今日の隆盛を見るに至つた、大正十年現在の全郡雜賀村字關戸に邸宅並に釀造場を新築して此處に移轉した、氏が釀造にかゝる「山櫻印」は品質佳良にして各種品評會



は一意専念家業以外の事業に手をそめず投機的事業は最も氏の厭ふ處である、氏資性温健着實然れども一度商機の到來するや猛虎の如き勇氣を以て事に當り細心なる注意は能く危険を防ぎ以つて常に好績を収めてゐる、令閨久枝子夫人は全郡安原村字冬野野白長太郎氏の次女にして夫妻の間に五男二女あり長男廣吉氏は和中に在學し他は小學校に通學中である、

に出品して賞牌を受くること數知れず今や其需要歳と共に増加し大阪、泉南、奈良、丹波等を主なる供給地とし販路更に擴大しつゝある、氏

日高塩屋の大地主

山田 榮太郎君

近郷切つての素封家
現日高銀行の取締役

氏の家は家號を天田家と稱し地方に於ける素封家である、氏は日高郡鹽屋村字南鹽屋に生る、和歌山中學卒業後は家にあつて祖父傳來の家督たる多數の田園を相續し、疲弊しつゝある農村の興振に盡瘁しつゝある、氏は御坊町に於ける財界の巨頭として其卓越せる手腕を揮ひ現に日高銀行の重役として其重きをなされてゐる、氏年齒未だ不惑に達せずして春秋に富む、其仁俠的温情は能く小作人をして悦服せしめ農村に於ける階級的概念に因する急進思想の緩和に多大の効あり新進氣鋭の郷士として將來を囑望されつゝある、氏は同村羽山芳樹氏の令妹信子を娶り既に一男一女を挙げ長男伊平君は目下日高中學にあり長女又日高高等女學校に在學中である、氏の令妹勝子は同村収入役山田信之助氏に嫁し各家庭孰れも圓滿琴瑟相和し和氣藹々として多幸な月日を送つてゐる、現住所日高郡鹽屋村大字南鹽屋、

農村振興の聲喧しきの時、之れが助成の力や亦地方豪家の努力に待つもの大なり、乞ふ奮勵努力を――

地方自治の大功勞者

南方吉九郎君

氏は慶應二年十月十五日海草郡紀三井寺村字三葛農南方喜太郎氏の三男に生る和中第一期生で家督相續後夙に實業界に飛躍し早くもその名を斯界に謳はれ年僅に廿七にして村會議員に選ばれ爾來卅幾年今尙その職にあり村政の一功勞者たるを失はない、其間大正三年推されて郡會議員となり翌年選ばれて縣會議員となる、同七年紀州綿布株式

會社を創設して之れが社長となり又全十年三葛信用組合の組織さるゝや組長に選ばれ現にその任にあり常に村政の爲め業界の爲め献身的努力を拂つてゐる氏は海草郡紀三井



方光五郎氏を婿養子とし和歌山市中之店中之丁に分家雜貨商を營んでゐる、令弟喜次郎氏又分家して渡鮮し朝鮮仁川における第一流の雜貨商と謳はる迄に成功せるも惜む可し三年前逝去した、母堂アサノ刀自は齡既に八十有七に達せるも今尙健在、氏は花卉盆栽を好み忙中の寸閑を樂んでゐる

寺村布引南方宗太郎氏の
息女トメ子を娶り一男一
女を挙げ長男喜太郎氏は
家におり長女文子に全部
龜川村字岡田小川家より
婿養子を迎へ分家して全
村にある即ち前縣會議員
南方織之助氏之である、
令妹久子又有田郡石垣村

實業界の元老

山本利兵衛君

機智縦横、先天的實業家
現野上興業銀行取締役

有田郡石垣村字吉原楠部吉十郎氏の次男に生れた利兵衛氏は明治廿五年八月那賀郡中野上村山本又次郎氏の婿養子として入籍同氏の長女クマ子と婚した、全廿九年酒造業を始めるや機智縦横其業に就くや着々として功を修め遂に年醸造高二千七百石以上に達するを得た、而して之れを一地方のみに於て販賣しつゝあるを見れば如何に優良品の醸造に腐心せるかを窺ひ知る、氏は伊那酒造組合評議員に推され野上興業銀行取締役に選ばれ爾來重任して今尙之れが職にある、此間縣下商工業者の爲め貢献する處又甚大なものがあつた、令國クマ子夫人との間に恒次郎氏あり夙に大藏省醸造試験所清酒講習所を修了し目下家にあり父君の業を助けてゐる、海草郡大野村富豪出口糸之助氏の長女静代子を妻に迎へ既に三男二女あり家庭至極圓滿にて堂春風に滿つの觀がある、氏は慶應二年七月十八日生、現住所那賀郡中野上村字溝之口

商略奇鷲進敏捷起つて着々功を商戦に收め勿然として天下に名を爲せる氏は夙に酒釀を以て身を立て名を成さんと欲し猛然斯業に従事し今や本縣における酒造家と云へば氏を聯思するに至つたのである

山本 誠 共 讀 書

郡實業家中の新人

道 本 秋 三 君

君子は其位に素して行ふ其外を願はざるなり此故に夷狄も行ひ貧賤に素して貧賤を行ひ艱難に素して艱難を行ふなり、今や聖天上に在す天下亦大平なり、人又爰ぞ平かならざるを得んや、世徒に侃諤し徒に奇異徒らに珍奇徒らに放大徒らに豪宕なるを以つて得意とするものあり亦之を賛同するもの尠なきに非ず豈亦緩急を知るものなりと云ふを得んや。殊に實業界に於て圓滿たる新人物の活動に俟つ寔に切なるものあり氏は伊都郡妙



寺町酒造業田村家に生れ長じて後養子として迎られ其家督を相續し其の遺業たる酒造の業を繼承した氏は和歌山中學出身の新進實業家で頭腦

明晰にして且つ縦横の商才に富み亦社交に丈け郡小實業家中稀に見る圓滿にして温良なる新人材である氏は丸柄銀行の設立さるゝや選ばれて取締役となり今尙其職にある、氏が醸造に係る富鷹は品質佳良なるを以て飲酒家に愛用され販路歳と共に増加しつゝある、氏年齒正に卅三、令閨との間に二男二女を擧ぐ、嗜好は謠曲、現住所那賀郡丸柄村

終世を村治に盡す

武田善一君

村議たること實に二十年

南有田の清流を一眸の裡におさめ、北、有田の連脈を以つて圍繞され南面北脊冬尙温き密柑の産地、有田郡田殿村の誇りとすべき一人の多額納税者である、即ち武田善一氏其人である、氏は同村大字角に於て生れ酒造を以つて業とし青年時代における其精勵の結晶は遂に今日の隆盛と化したのである、氏は實業家として斯業界に活躍すると同時に又政治に興味を有し今より約十年前推されて村長の重任にあること一期、村會議員たること實に二十有余年今現に其職にあり常に村治の圓滿に對して絶大なる努力を拂つてゐる、性温順柔和能く人に接し能く人を世話す爲めに世人の氣受け頗る善く地方における一個の有志としての資格を失はない、氏は同郡五月西村大字青田高垣伊太郎氏の令妹を娶り長男善治氏は耐久中學卒業後居村にあり目下田殿村信用組合理事を勤め那賀郡根來村字阪本故豊田醫伯の令嬢藤子を娶り次男彰氏は帝大工科機械科卒業後上海紡織に勤務し居たりしが最近四十三銀行北代達枝氏の令嬢にして女子大學出の才媛静子を娶り目下同社を辭して大阪に居住して居る。

大田 新一郎

清酒長の醸造元、市會議員

河野清君

銘酒「清酒長」の醸造元和歌山市畑屋敷西の丁河野商店主河野清氏は那賀郡下神野村字神野市場
醫師亡秀貞氏の五男に生る、長ずるに及び五年の間東西の都に遊學し後明治三十七年現在の場所に
酒造業を創めた、目下東

京大阪に支店高知に出張
所をおき年三千有餘石の
清酒を賣捌いてゐるに徹
しても全酒の優秀佳良な
るを窺ひ知るに足る、氏
は明治四十一年選ばれて
市會議員となり爾來當選
すると四期今其職にあり



女昌子は和高女に次女秋子は修徳高女に在學中三四男は小學に通學中、氏の令兄河野圭三郎氏は醫
師にして郷里那賀郡下神野村神野市場にあつて亡父の遺業を繼ぎ令妹岬子は同郡田中村打田佐野病
院長佐野澤之助氏に嫁し幸福なる家庭を作りつつある氏の令閨富子夫人は早世し此世の人でない

市政に忠實なる議員の一
人と目されてゐる氏は眉
目秀麗の好紳士で性温厚
篤實の士である長男一君
は早稻田大學商科出身の
商學士、次男廣長君は明
治大學法科を卒業し兩君
共に目下自宅にあつて嚴
父の業を助けつゝある長

縣下の大地主大家主たる

宇治田福正君

酒造業中六家九代の主にして

性剛直にして謙讓の美德に富む

和歌山市及び近郷における大地主大家主として人々に膾炙されつゝある先代中六事宇治田福正氏は先々代六右衛門氏の次男にして明治六年八月十二日を以て同市寄合町一番地に孤々の聲を擧げた幼名を増次郎と稱し亡父の家督を相續して其名を襲ひ宇治田家九代の主となり其遺業たる酒造業を享け次いだ、氏は其事に就くや銳意家業の益々繁榮ならんことに努めた結果家運愈々榮へ富豪「中六」の名は益々世人に喧傳さるゝに至つた、氏は資性剛直にして謙讓の美德に富む、氏未だ曾て各種事業並に會社等に關係して其役員たるを聞かず同業組合長に推さるゝと再度なりしも尙且之れを辭して其職に就かざるに徴しても其名の社會に顯はるゝを好まず隱然健實そのものゝ如く家業にのみ熟中して他に余念なかりしと令閨タカ子夫人は海草郡鹽津浦中山甚吉氏の息女にして既に四男を擧ぐ、氏は目下次男福時氏に世を譲りて福正と改名し福時氏は中六家を相續して十代六右衛門氏となつた、長男増次郎君を別に自己の嗣子とし同市杉の馬場一丁目に閑清なる邸宅を構へ悠々として閑日月を送つてゐる、福時、増次郎の兩君と共に和中出身にして三男尙敬四男悅也の兩君は目下小學に在學中である。

郷黨の慈父と仰がるる

梅田善一君

大正四年十月伊那郡に於て行はれたる師團對抗演習の際長くも朝香宮殿下御旅館の拜命を受くるの光榮に浴したる梅田善一氏は幼より學を好み長ずるに及び帝都に遊び明治四十年九月中央大學法科を卒業せる秀才で歸郷後十數年來村學務委員に重任して地方育英の事業に盡力し又大正十一年岩出上岩出間の道路

改修に當り其委員として寢食を忘れて死力を盡し遂に全村空前の大事業を完成せしめた其他紀州蠶糸會社の創立に際し之



れが發起人となりて參與し斯業界の爲め貢獻せる處尠からずと氏は亦政治に興味を有し舊兒玉派に屬し其政治的手腕の非凡なる世人周知の事

實である、氏人格高邁、性剛直にして熱血の士、趣味としては新畫を好み亦盆栽を愛し余暇あらば庭に出でて盆栽の手入れをなし之れを無上の樂みとしてゐる、氏が植物愛は人類愛の片影とも見る可く郷黨を愛撫する我兒の如く人に接するに和顔愛語、爲めに世人の信望益々厚し、令閨慶子夫人との間に二男二女を擧げ一家睦ましく家業に従事してゐる、現住所那賀郡上岩出村字東阪本

温和にして元氣漲らつたる

横谷佐太郎君

身若年してに今日の地位をかち
得たる氏は實に天下の偉才なり

幾多の曲折にも屈せず幾多の誘惑にも惑はず奮闘努力奮に今日あるのみと眞に人生の七轉八起の辛酸を體驗して遂に今日の大業をなしたるの士に横谷佐太郎氏がある、氏が嚴父佐太郎氏が殘せる未成を完成せしめたのが即ち氏である、身弱冠にして今日の大功を收め得た氏は慥に天下の偉才であつて温和なるが如く恬達なるが如く小心なるが如く剛膽なるが如く而かも高邁なる人格者たることが氏今日の地位をかち得た所以のものである、氏は明治廿一年を以つて伊都郡九度山町に生る幼名を藤吉と謂ひ後亡父の名を襲ひて遺業たる木材商を繼承した、實業家としての氏は高野登山自動車高野索道の重役たり其他關係會社事業其數多く枚擧に遑あらず又公職としての氏は町會議員に當選するを二期今現に其職にありて町政の爲め貢獻する處多く實業的政治的手腕の兼備せる新進氣鋭の士である、那賀郡王子村堀上家より妻女を娶り三男をあげしも惜むべし令聞は今秋幽明界を異にした三子息共に小學に在學中である、現住所伊都郡九度山町。

和歌山酒造界の元老

島本安兵衛君

和歌山酒造界の元老たる島本家は代々酒造を業とせる舊家で當主安兵衛氏は先代安兵衛氏の息にして明治十五年六月十日を以て和歌山市北新四丁目に生る、氏は其遺業にのみ安んずるを得ず大正九年和歌山毛織株式會社の設立さるるや推されて専務取締となり又近く同市元寺町東の丁に島本毛織工場を設け更に同市北新四丁目に錦生製絨所を經營し専ら其業の開拓に努力しつつある、氏は曾て營業稅調査委員に選ばれしことあり、今



喧傳されてゐる、大阪市難波區石關屋町に支店を有し多く大阪神戸地方に販路を求めてゐる、氏は海草郡黒江町肥料商にして大富豪たる當代名手由兵衛氏の令妹米子を娶り既に二男一女を擧げてゐる、長男安雄氏は和歌山中學に在學し次男義孝君は小學に長女美代子は高等女學校に通學中である、伉儷いと睦まじく家庭圓滿にして常に春風に満ち和氣霽々現住所和歌山市北新四丁目四番地

「勤儉」を唯一の信條とせる

野村又兵衛君

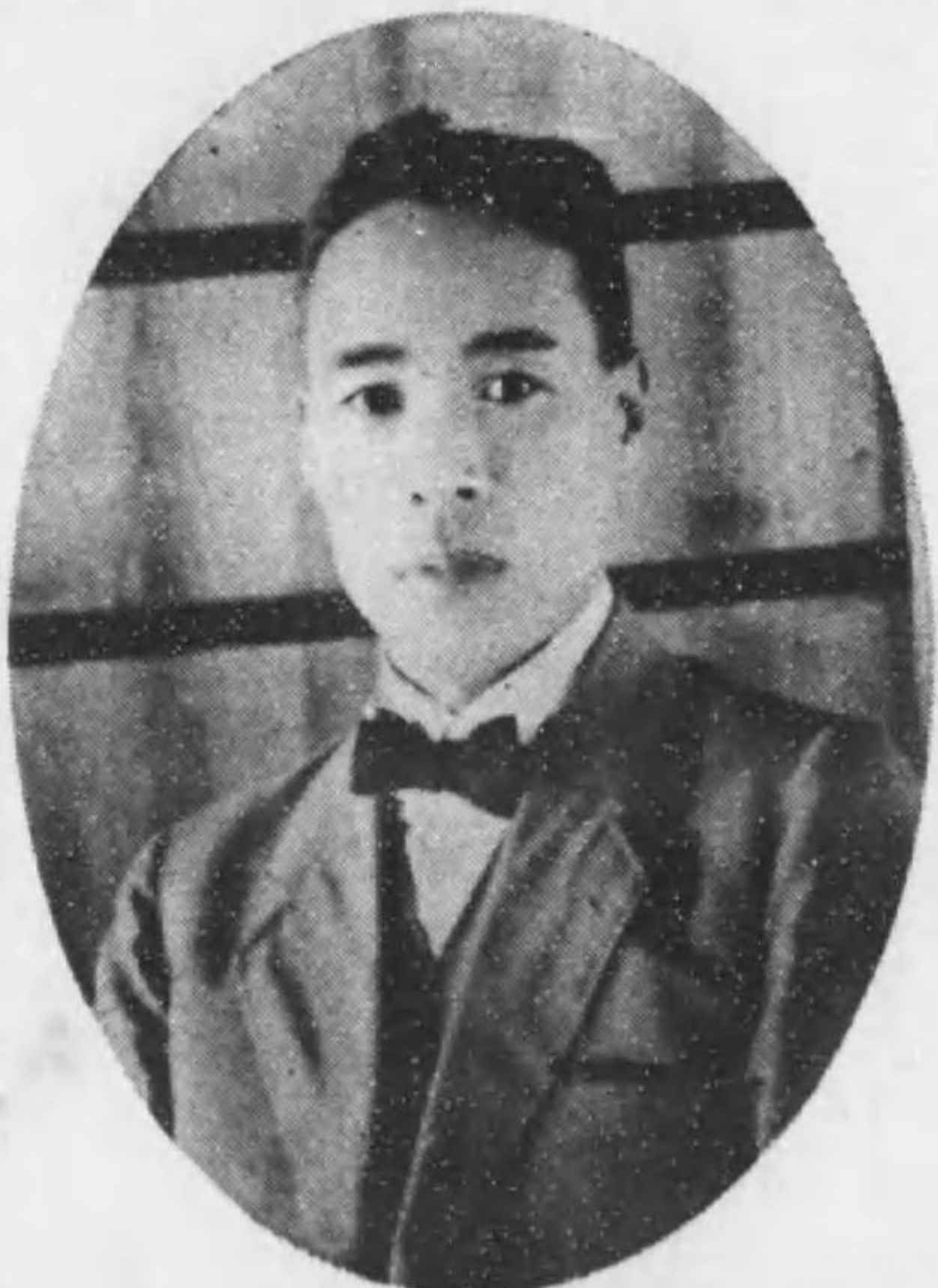
一點至誠の念強きの人

眼を萬卷の書に曝し口に凡百の議論を吐く然も終に一つの實行に如かず、されば玄門に出入して錦衣玉食するもの磊然たる一箇の田夫に劣ることなしとせず吾人氏に於て這般の消息を解するを得た、思ふに氏は深遠なる學術あるに非ず又顯貴の援引あるに非ず一點至誠の志念もて遂に里人の信望をあげたるのである氏は日高郡御坊町に生る、性謹嚴質朴にして徒らに財を散せず能く活動し能く蓄財し以つて家運の隆昌を圖るを以つて氏唯一の信條としてゐる、氏の家は代々農林を以つて業とせる地方の素封家で氏は曾て選ばれて町會議員となり波瀾多き御坊町政の爲め貢献せること尠からず政治的、氏の名聲漸く高まらんとしつ、ある、令閨との間に三男三女あり長男正一郎氏は早稻田大學商科を卒業して目下家にありて父君の助けつゝある次男は他家に入りて一家を樹て一族何れも健在にして家庭圓滿、和氣霽々として樂しき歲月を送つてゐる、現住所日高郡御坊町

市實業界の寵兒

中岡喜助君

資性英敏にして商才に長けた氏は日夜業務に熱中し又交際場裡に立ちて奮闘した其結果は家運益々盛へ遂に市實業界の寵兒たるに至つた大正二年五月廣田善八氏主唱の下に正金貯蓄銀行の設立せらるゝや嚴父喜助氏之れが取締役となりしに幾くもなく逝去したので全三年四月家督を相續し亡父の名を襲名し全四年正金貯蓄銀行常務取締役となり以つて今日に至つた、氏は又紀陽織布株式會社和歌山瓦斯株式會社の各



丁十九番地に居をとし木綿商を業としてゐた、令閨鶴枝子との間に既に男子四人を設け長男徳一郎君は中學に在學中で常に家庭圓滿、氏學歷の深きに非らず將た大家の舉録あるにあらず微々たる田舎より市の重望を荷ひ實業界に入りて社交の名材たるに至つた又偉なる哉である

取締役日本除虫菊株式會社監査役、合同足袋株式會社々長に就職してゐる氏は明治十四年十二月六日海草郡東山東村大字永山の片田舎に孤々の聲を擧げ幼名を隆三と呼び嚴父故中岡喜助氏に隨ふて和歌山市に來り北新金屋

吳服業者一方の雄

宮田幸之助君

高層なる大洋館の新築は
同店の繁榮を物語るもの

和歌山市新通四丁目街頭巍然と聳ゆる洋館の一大建築物は市吳服業界の雄宮幸吳服店それである店主宮田幸之助氏は幼名を幸太郎と呼び先代幸之助氏の長男に生れ家督を相續して襲名した、同店は創業既に六十年、先代が開拓した其顧客は氏の熱心なる努力に依つて益々其數を加へ今や丸正、丸久と共に三大吳服店の一に列した、現在の建物は巨費を投じ大正十二年十月落成せるもので其露臺に昇れば全市を一眸の裡に收め得る市唯一の高層なる建造物である氏は一業一念の人にして投機的事業を好まず着實なるその方針は同店の信用を倍加しつゝある所以で同店の繁榮亦實に茲に淵源してゐる、令閨民枝子夫人は海草郡三田村字田尻宮田楠太郎氏の息女にして夫妻の間に四男五女あり長男幸一君は稻門政治科出身の秀才で目下家にあり父君の業を援けつゝある次男安之助君は和歌山中學に三男修君は和歌山商業に四男俊雄君は小學に孰れも在學中で長女照子は實科高女卒業後全市新通三丁目骨董商雜村利吉氏に嫁し次女静子は實科高女を卒業し目下家政の内助を爲しつゝあり三女君子四女常代の両女は共に實科高女に五女八重子は小學校に在學中である氏資格順良、商賣人たるの要素を具備せる好個の紳商である、氏年齒正に五十二歳

一業専念の成功者

山本幸兵衛君

品質優良、四海に其名を轟かせる清酒「祝砲」の醸造元たる和歌山市西田中町山本幸兵衛氏は文久三年七月十八日を以つて有田郡南廣村河瀬高城八十郎氏の四男に生れ幼名を富之助と云ひ明治十九年嗣子なきを以つて迎へられて酒商山本幸兵衛氏の養子となる養父幸兵衛氏は謹嚴なる人にして投機事業を好まざりし其訓育は能く氏の胸中に銘し一意専念業に精勵し着々其功を納め現今にては北海道九州大阪神戸泉南及び縣下に亘る大複数卒業後家にあり次男章次郎氏は和歌山中學に長女多美子は高女に通學中である、氏の令弟鹽路次兵衛氏は同市東長町五丁目に於て酒類商を營み有田郡湯淺町深専寺住職吉峰瑞岳師は實に氏の次弟である令兄高城八郎氏は郷里にあつて實父の家名を相續してゐる、氏は一兄二弟と共に就れも家庭圓滿にして常に春風に滿つの觀がある精神一到何事か成らざらんの金言を氏に於て見る



品質優良、四海に其名を轟かせる清酒「祝砲」の醸造元たる和歌山市西田中町山本幸兵衛氏は文久三年七月十八日を以つて有田郡南廣村河瀬高城八十郎氏の四男に生れ幼名を富之助と云ひ明治十九年嗣子なきを以つて迎へられて酒商山本幸兵衛氏の養子となる養父幸兵衛氏は謹嚴なる人にして投機事業を好まざりし其訓育は能く氏の胸中に銘し一意専念業に精勵し着々其功を納め現今にては北海道九州大阪神戸泉南及び縣下に亘る大複数卒業後家にあり次男章次郎氏は和歌山中學に長女多美子は高女に通學中である、氏の令弟鹽路次兵衛氏は同市東長町五丁目に於て酒類商を營み有田郡湯淺町深専寺住職吉峰瑞岳師は實に氏の次弟である令兄高城八郎氏は郷里にあつて實父の家名を相續してゐる、氏は一兄二弟と共に就れも家庭圓滿にして常に春風に滿つの觀がある精神一到何事か成らざらんの金言を氏に於て見る

氣骨稜々たる快丈夫

川口 榮 藏 君

湯淺町に一人の上院選舉有權者
なきに憤慨し殊更に資格を作つた

氣骨稜々たる快男子にして苦勞人たる川口榮藏氏は有田郡湯淺町になくはならぬ有志の一人である、今夏貴族院多額納稅議員の選舉行はるゝに際し同町に一人の有資格者なきを慨嘆し氏は町長の煎入りで其納稅額を増加し其資格を穫得して湯淺町民の爲め萬丈の氣を吐いた、氏は全町の人に於て目下煙草元賣捌を業とし傍ら町政に興味を有し町自治の爲め將町民の爲め常に東奔西走して寧日なき状態になる、氏は性温厚、圓滿なるの人、爲めに町民深く氏を信頼敬慕し名望歳と共に高く實業家として政治家として氏を待つに急なるものがある、又大地主としての氏は苦勞人なる丈け夫れ丈げ小作勞働者に温情を垂れ苛斂銖求の振舞更になく爲めに幼老男女に至る迄氏の徳を推稱せざる者なしと、道義地を掃つて滅し人情紙よりも薄き現代に於て氏を見る、蓋し湯淺町の譽れと謂ふべしである、清き夏の風、雨後の翠を吹いて氣味爽快を覺ゆるは以つて氏の性格に比すべく冷艶淡々の雪、寒天に瓊玉を綴るは以つて氏の人物に擬すべしである

氣骨稜々たる快丈夫

川口榮藏君

湯淺町に一人の上院選舉有權者

なきに憤慨し殊更に資格を作つた

氣骨稜々たる快男子にして苦勞人たる川口榮藏氏は有田郡湯淺町になくはならぬ有志の一人である、今夏貴族院多額納稅議員の選舉行はるゝに際し同町に一人の有資格者なきを慨嘆し氏は町長の煎入りで其納稅額を増加し其資格を獲得して湯淺町民の爲め萬丈の氣を吐いた、氏は全町の人に於て目下煙草元賣捌を業とし傍ら町政に興味を有し町自治の爲め將町民の爲め常に東奔西走して寧日なき状態になる、氏は性温厚、圓滿なるの人、爲めに町民深く氏を信賴敬慕し名望歳と共に高く實業家として政治家として氏を待つに急なるものがある、又大地主としての氏は苦勞人なる丈け夫れ丈げ小作勞働者に温情を垂れ苛斂銖求の振舞更になく爲めに幼老男女に至る迄氏の徳を推稱せざる者なしと、道義地を掃つて滅し人情紙よりも薄き現代に於て氏を見る、蓋し湯淺町の譽れと謂ふべしである、清き夏の風、雨後の翠を吹いて氣味爽快を覺ゆるは以つて氏の性格に比すべく冷艶淡々の雪、寒天に瓊玉を綴るは以つて氏の人物に擬すべしである

市場を透観して成功した

橋 爪 源 助 君

商略の奇智、志氣の堅剛、資性の卓抜、嶄然實業界中頭角を現はすものは橋爪源助氏である、氏は明治二年六月廿三日を以つて和歌山市北休賀町橋爪源助氏の長男に生れ父祖の業を繼いで縣下特有物産たる綿布賣買を業とした、氏は長ずるに従ひ天稟の才は益々其器を磨ぎ買へば必ず騰り賣れば必ず下落し殆んど百發百中にして誤らず遂に巨財を得るに至つた明治三十年九月嚴父の逝去せらるゝや亡父の名を襲ひて家業に黽勉し随つて益々家運榮へ今や營業の基礎大盤石の如く動かすべからざる程鞏固である又盛なりと云ふべしである、令聞は橋本宗匠に師事して茶道を極め繁忙なる店務に疲勞せる夫君を慰むべく點茶して之れを進め松風杣響の幽境を市井に味ひ以て英氣を養ふの素としてゐる、現住所和歌山市北休町



今日に至つた令聞なをる子(明治五年八月生)は海草郡日方町柳平兵衛氏長女にして現大阪北濱に於いて名聲高く株式界の重鎮たる柳廣藏氏の令妹である而かも伉儷睦まじく日に多數の店員を督勵して家業に黽勉し随つて益々家運榮へ今や營業の基礎大盤石の如く動かすべからざる程鞏固である又盛なりと云ふべしである、令聞は橋本宗匠に師事して茶道を極め繁忙なる店務に疲勞せる夫君を慰むべく點茶して之れを進め松風杣響の幽境を市井に味ひ以て英氣を養ふの素としてゐる、現住所和歌山市北休町

紀の川河西切ての大地主

宇治久兵衛君

温順柔和の新進農業家

紀の川河西切ての大地主海草郡湊村字外濱宇治田久兵衛氏は幼名を純と云ひ先代久兵衛氏の長男に生れ嚴父死亡後其家督を相續して其名を襲ふた、氏は和歌山縣立農林學校卒業後家にあつて嚴父の遺業を繼ぎ其多くの田畑より收穫する米麥並に貸附金より生ずる金利に依つて氏の財寶はいやが上にも膨脹しつつあるを唯一の楽しみとして悠々幸福なる歲月を送つてゐる、氏性温順柔和其名の社會的に知らるゝを好まざりしも本年選ばれて村會議員となり又八幡前製織會社取締役となつた氏は近年大阪府泉南郡貝塚町酒造業協阪家の息女を娶り既に一男を擧ぐ、氏の長姉は全村に分家して一家を成し次姉は全郡湊村高等小學校長大河内伊佐雄氏に嫁し同村御膳松に居住し令弟進氏は目下東京にありて法律學研究中である氏の從兄に和歌山タイムス新聞社長志賀辰次郎氏あり叔母婿の弟に長髪にて有名なる老政客志賀法立正氏がある氏は明治卅一年の生れ現住所海草郡湊村大字外濱

殉教的精神に燃ゆる

玉置西久君

聖使徒ヨハネ、ポーロの殉教的精神に燃へオーカスチンの膽力信念に強く日曜をチャーチに形式のみの信仰を捧ぐる腐弱なる信徒と自らその選を異にし主が熱血を以て彩られし十字架の三義を味得せるものは即ち氏を指さすものである氏は極寒と雖も羽織を着せず其徒弟を教養するにも主が試練の苦衷を思ひて常に安居徒食するを戒め一種の苦痛を興へてこれが試練となし以つて硬教育を施してゐる、氏資性豪膽豪放磊落奇偉なる輩の學ぶべき亦多々ありと云ふべきである。氏は不遇にも七年前愛妻を失ひしも感ずる處あり未だ孤獨の生活を續けてゐる、長男醒氏は同町に債券買業を營み三男は獨逸に遊學すると五年獨婦人を娶り過般歸朝して東京に在住し三女は東京の某家に嫁した、氏は書畫骨董を愛し又謠曲に功なりと、文久元年七月五日の生、現住所東牟婁郡新宮町。



も博愛の心深く私財を投じて人を救ひ、書を編して教へを説き常に人類愛の實行と唱導に余念がない富者にして既に此志あり以つて現代成金

當を得て中庸を守る

木下伊平君

伊都西部に於ける

豪商にして大酒造家である

過度も不可なり不足も悪るし事は須らく當を得て中庸を守る可し將に氏の如き常に當を得て中庸を守るの士といふべしである殊に進んで名望を賣らず徳行を爲すを以つて最上の樂しみと爲すが如き全く他人の行ひ能はざる倣倣し得ざる好紳士といはざるを得ず、氏は伊都西部における豪商として舊家として同族木下齊十郎氏と共に伊都郡妙寺町中飯降の一隅に木下王國を形づくつてゐる氏は温厚篤實、自らを持するに恭儉、少しも驕らず謹嚴にして節義を重んじ村人に接するに又温和爲めに村民は勿論婢僕に至る迄氏を慈父の如く敬慕せざる者とはなく其信望益々高く其高德全郡に普ねし氏の家は代々酒造を業とし決して投機的事業に關せず孜孜として一事一業に余念がない、爲めに其醸造に係る清酒實に風味佳良にして販路日に月に増加し家運益々隆榮を極めてある、又各種品評會、共進會に出品褒狀を受くること再三にして止まらずと

龍門富士高く紀の川の清流長くして龍門山の崩れざる限り、紀の川の遡流せざる限り木下家の榮へ幾久しく繼續することを信する、現住所伊都郡妙寺町中飯降

加工綿布業の恩人

高橋 龜太郎 君

氏は慶應二年十二月那賀郡粉河町に生る性沈着にして敏捷、克く商機を見るの才に富む、當時伊太利ネールの盛に輸入さるゝを見たる氏は一意専念其染色に志し最初低型にて種々なる模様染色に従ひつゝありしも到底需要を満足すべくもなしと思ひ苦心慘膽の結果遂に凸型捺染を案出し紀州ネールの第一歩を圖るに至つた、其後凹型捺染の輸入を見たる氏は直に英國製型ローラ彫刻機を購入し現在の綿ネール工業染



しつゝある其間大正六年選れて市會議員となり市政に盡す處尠からず信用日に加り同業の信望又厚く和歌山綿ネール組合副組長に推された長男常次氏は京都高等工業學校を卒業し目下同社の取締役、長女さみ子は瀬川芳助氏に嫁し、家庭常に圓滿である、現住所は和歌山市畑屋敷中之丁

氣骨稜々たる快丈夫

川口榮藏君

湯淺町に一人の上院選舉有權者
なきに憤慨し殊更に資格を作つた

氣骨稜々たる快男子にして苦勞人たる川口榮藏氏は有田郡湯淺町になくはならぬ有志の一人である、今夏貴族院多額納税議員の選舉行はるゝに際し同町に一人の有資格者なきを慨嘆し氏は町長の煎入りで其納税額を増加し其資格を獲得して湯淺町民の爲め萬丈の氣を吐いた、氏は全町の人にして目下煙草元賣捌を業とし傍ら町政に興味を有し町自治の爲め將町民の爲め常に東奔西走して寧日なき状態になる、氏は性温厚、圓滿なるの人、爲めに町民深く氏を信頼敬慕し名望歳と共に高く實業家として政治家として氏を待つに急なるものがある、又大地主としての氏は苦勞人なる丈け夫れ丈け小作勞働者に温情を垂れ苛斂誅求の振舞更になく爲めに幼老男女に至る迄氏の徳を推稱せざる者なしと、道義地を掃つて滅し人情紙よりも薄き現代に於て氏を見る、蓋し湯淺町の譽れと謂ふべしである、清き夏の風、雨後の翠を吹いて氣味爽快を覺ゆるは以つて氏の性格に比すべく冷艶淡々の雪、寒天に瓊玉を綴るは以つて氏の人物に擬すべしである

清酒「長齡」の醸造元

長谷六兵衛氏

和歌山市雜賀町五番地長谷六兵衛氏は那賀郡切畑村井關助左衛門氏の令弟にして、安政三年五月三日に生れ長谷家に婿養子として迎へられた、先代六兵衛氏は肥料或は木材商を營み居りしも、氏が其家督を相續せる後酒造業を思ひ立ち即ち明治四十四年之れを創業し健實なる店是は遂に年二千有餘石を醸造する一流酒造家に列した、清酒長齡の品質佳良なるを以つて泉南、新宮及び地方に於て大に歡迎されてゐる令閨コエイ夫人は長男勝次郎氏は早稻田大學商科に在學中である、長女政子は海草郡濱中村字下津浦山本嘉市氏を婿養子として迎へ分家して目下大阪市難波區貝殻町に於て實業に従事してゐる、二女光枝子は同市萬町倉庫銀行常務取締役前島重次郎氏に嫁し孰れも伉儷睦まじく圓滿なる家庭を作つてゐる、氏は和歌山市雜賀町五番地に住所を有し同市岡山町九番地に店舗を有してゐる



谷家の養女にして和歌山市三木町建具商長谷種藏氏の實姉である、夫妻の間に二男二女を挙げ次男新次氏は目下家にあつて父兄の業に従ひ三

牟婁實業界の麒麟兒

岡本幸助君

嚴父は地方財界の重鎮であつた
資性質實剛健極めて素朴なる人

學者の言、美にして志士の論、精なり、然れども之れを行はんとするや必ず經濟關係に禍されて蹉躓す、此故に自ら産を造るの人に非らざれば直ちに言論の實行を奏し難し、憂ふべきは不生産家の言論に非らずや貴むべきは生産家の實踐に非らずやである、氏は士魂ありて商才あり田邊中學卒業後實業界に身を投じ天稟の才能、よく斯界に飛躍して今や紀南實業家中の新進花形として氏が令名漸く高まらんとするに至つた即ち嚴父が四十三銀行監査役として日高水力電氣株式會社の取締役として兩社の事業を翼助せる其功績が氏今日の地位を勝ち得たるの基礎とも云ふべきである氏は明治廿一年を以つて西牟婁郡田邊町岡本庄太郎氏の長男に生れ大正十三年家督を相續し令閨千代子を娶り氏が性そのもの、如く質實剛健毫も驕らず極めて質素な生活の中にも書畫骨董を愛玩しつ、悠々樂しき歲月を送つてゐる、現住所西牟婁郡田邊町。

新進氣鋭の實業家

川 上 由 松 君

内には古武士の魂なり外には商才を具へ常に飛躍して機宜を制するの能力を有す、是れ豈に理想の實業家にあらずして何ぞ。而かも活動して機宜を過らざるの氏は明治二十年八月十七日を以つて和歌山市久保丁三丁目綿

ネル商川上由松氏の長男に生れ高等小學卒業後家にあつて實業家たるの素質を養ひつゝも父君の業を助けてゐた、氏は幼名を由太郎と呼び家督を相続して嚴父の名を襲ひて由松と改名した其後不幸



なる哉其店舗は祝融子の見舞ふ處となりしも同市小野町に營業所を移し倍加せる精力を以つて其業に勵み氏が有する炯眼宜しく東亞の市場を透視し内外の政變政情を觀測し以つて商機を失はず常に巨額の富を得て大正七年

二月現住所に移轉し以て今日に至つた氏は推されて紀州ネル同業組合代議員となり近年合資會社川由商店を組織して東京に本店を置き之が代表社員となつた氏資性温厚將來を囑望さるゝや新進花形の實業家である令閨ツネ子夫人は同市東かじや町榎本榮次郎氏の三女にして一男三女を擧ぐ

伊都郡の一酒造家

木下齊十郎君

人格高邁にして廉潔の士

伊都郡妙寺町中飯降の小字は木下家に依りて知られ木下家は素封家と酒造業を以つて知られてゐる、氏の家は代々酒造を以つて業とし氏又嚴父の家督を相續し其遺業を繼いだ、其醸造石數郡に絶冠し其清酒又佳良にして夙に名あり廣き販路を有して、各種品評共進、博覽會等に出品して高級の賞牌を受領してゐる、氏は人格高邁性温良順和温乎たる容貌はさすがに大家の嗣たることを肯首される、常に町治の爲めに公共の爲めに財を投じて町政の圓滑、事業の完成を助け其功決して少からずと、氏は曾て所得税調査委員に選ばれしことあり其他關係事業多く伊都郡に於ける實業家の巨星と目され全業者間に於ても重きを爲されてゐる亦家庭の人としての氏は婢僕を愛する事我兒の如く愛撫し未だ曾て大聲を擧げて叱咤せることなしと云ふ爲めに丁稚小僧に至る迄嬉々として店務に精勵し家庭常に春日の如く陽々として長閑けく家運益々隆昌を極めつゝある、氏未だ妾を貯へしことなく爲めに琴瑟相和し和氣霽々として春風に満つるの觀ある。現住所伊都郡妙寺町中飯降

木下義十郎君の肖像。右に「木下義十郎君の肖像」とあり、左に「木下義十郎君の肖像」とあり、中央に「木下義十郎君の肖像」とあり、下部に「木下義十郎君の肖像」とあり、最下部に「木下義十郎君の肖像」とあり。

我實業界の偉傑 故島村安次郎君

我實業界の怪偉故島村安次郎氏は海草郡宮村大字太田に生れ太田安次郎と稱し年少己に郡書記となり次で宮村々長に推され其在職中明治十六年夏偶々小倉井と宮井との水利係争となるや年少氣鋭義侠に富める氏は居村の死活問題なりとし同志神前修三氏等と共に多數の農民を率ひ紀の川の上流小倉井堰を破壊し小倉村民の逆襲に流血の惨を見爲めに、兇徒嘯暴の罪下に獄裡の人となつたが明治の佐倉宗五郎として近郷の間に其名顯れとなり、大正十年京阪電鐵と合併するや其重役となつた又一面公共事業に貢献せること擧げて數ふるに違あらずと氏資性清廉潔白、親切義侠に富みて膽力あり恰も古武士の風格がある尙儉素にして常に綿服蓬髮平然として濶歩する氏亦偉傑たるを失はず實に當世得難き實業家なりしも惜むべし多年の宿阿に憫み遂に大正十四年九月五日世壽六十有九にして永眠した



た、後島村家を繼ぎ専ら酒造業を營みつゝ徐々實業界に頭擡し紀州鐵道會社を起し少からざる私財を散し明治卅年和歌山水力電氣株式會社社長